

2013年度 授業要覧

経営学部 履修ガイド



青山学院大学

教育方針・理念

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

青山学院大学の理念

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、
神と人にとり仕え社会に貢献する
「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である。
本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって
自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する。
それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。
本学のすべての教員、職員、学生は、
相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、
おのおのの立場において、時代の要請に応えうる大学の創出に努める。

経 営 学 部

経 営 学 科

「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

経営学科の教育課程は、青山スタンダード科目と専門教育科目で構成される。

◆カリキュラム体系

専門基礎科目及び共通専門科目を土台として、経営学の基本的な視点・知識ならびに地球を舞台にして活躍するために欠かすことのできない語学力を習得する。その上で、正統的な経営学ならびに会計学を体系的に身につける。そして、演習によって実証的・実践的な能力を高めると共に、青山スタンダード科目によってそれらを補完する。

また、経営学部の外国語教育の方針は、(1)発信型の外国語能力を身につけること、(2)1・2年次に履修した外国語を使って3・4年次に上級の能力を身につけること、ができるようにすることである。

特 色

経営学科とマーケティング学科は、一定の枠内で相互の科目を履修できる。ただし、それぞれの学科学生が、所属学科の教育研究の理念に合った科目を履修できるように配慮する。

「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」

経営学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（経営学）」を授与する。

1. キリスト教理念にもとづき、真理を謙虚に追求し、すべての人と社会に対するヒューマニティあふれる責任を果たすことができる。
2. 変化する国際情勢や経済社会の動向に関心を持ち、それらの動きを適切に理解し、分析するための経営学ならびに会計学の基礎理論を習得しているとともに、関連するマーケティングの基礎理論を理解している。
3. 各界のリーダーやプロフェッショナルとして活躍するために不可欠となる専門知識や技能を身につけている。
4. 世界を舞台にして活躍するために欠かすことのできない外国語、とりわけ英語能力、そしてビジネスに不可欠な情報処理能力を身につけている。
5. 文化の異なる人々とのコミュニケーションを円滑に行い得る能力を身につけている。

マーケティング学科

「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

マーケティング学科の教育課程は、青山スタンダード科目と専門教育科目で構成される。

◆カリキュラム体系

専門基礎科目及び共通専門科目を土台として、経営学の基本的な視点・知識ならびに地球を舞台にして活躍するために欠かすことのできない語学力を習得する。その上で、顧客関係性や社会的視点を取り入れたマーケティングを理解し、マーケティングにおける問題解決能力を身につける。そして、演習によって実証的・実践的な能力を高めると共に、青山スタンダード科目によってそれらを補完する。

また、経営学部外国語教育の方針は、(1)発信型の外国語能力を身につけること、(2)1・2年次に履修した外国語を使って3・4年次に上級の能力を身につけること、ができるようにすることである。

特 色

経営学科とマーケティング学科は一定の枠内で相互の科目を履修できる。ただし、それぞれの学科学生が、所属学科の教育研究の理念に合った科目を履修できるように配慮する。

「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」

マーケティング学科は、以下の要件を満たす学生に対し、「学士（経営学）」を授与する。

1. キリスト教理念に基づき、真理を謙虚に追求し、すべての人と社会に対するヒューマニティあふれる責任を果たすことができる。
2. 変化する国際情勢や経済社会の動向に関心を持ち、それらの動きを適切に理解し、分析するためのマーケティングの基礎理論を習得しているとともに、関連する経営学ならびに会計学の基礎理論を理解している。
3. 各界のリーダーやプロフェッショナルとして活躍するために不可欠となる専門知識や技能を身につけている。
4. 世界を舞台にして活躍するために欠かすことのできない外国語、とりわけ英語能力、そしてビジネスに不可欠な情報処理能力を身につけている。
5. 文化の異なる人々とのコミュニケーションを円滑に行い得る能力を身につけている。

総目次

I. キリスト教教育について.....	2
II. 大学での学習活動について.....	3
1 大学での学習とは（カリキュラム／履修）	
2 単位（単位制／単位とは／単位数／既修得単位の認定／協定校・認定校留学による単位認定）	
3 授業科目の種類と配置（授業科目の種類／履修年次／履修順序）	
III. 履修について.....	6
1 履修計画（履修計画の立案／履修計画上の注意）	
2 履修登録（履修登録について／履修登録の方法／履修登録の確認と修正／履修取消制度について／履修取消申請方法）	
IV. 学部履修要項.....	11
V. 授業について.....	45
1 授業（授業時間／授業教室／休講／補講／授業の欠席について）	
2 大学からの伝達	
3 緊急時の「授業の取り扱い」および「伝達手段」について	
VI. 試験・レポートについて.....	48
1 試験の種別（定期試験／平常試験／レポート／追試験）	
2 定期試験の受験（定期試験時間／受験上の注意／不正行為）	
3 追試験（申請資格／申請方法／追試験時間・採点）	
VII. 成績評価について（成績評価／G.P.A.／成績通知／成績調査）.....	52
VIII. 進級および卒業について（進級／卒業／9月卒業／卒業延期制度）.....	54
IX. 学籍について.....	55
（修業年限／在学年限／休学／復学／退学／再入学／二重学籍／除籍／転学部・転学科）	
X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について.....	57
XI. 大学院について.....	64
巻末 学務担当窓口について	

I. キリスト教教育について

本学のキリスト教教育

キリスト教の精神のもとに建てられている青山学院は、その「教育方針」にも明記されているように「キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き 真理を謙虚に追求し 愛と奉仕の精神をもって すべての人と社会とに対する責任を 進んで果たす人間の形成を目的とする」特別な学校です。したがって、その中に設置された青山学院大学においても、キリスト教教育を非常に重視しています。

本学における教育の特徴が他の国公立や私立の大学と異なる最もユニークな点は、このキリスト教による教育方針にあるといえます。

この教育方針をまっとうするために、本学には次の3つの基本的プログラムがあります。

- (1) 大学礼拝 (2) キリスト教概論 (3) 宗教センター活動

(1) 大学礼拝

大学では、キリスト教教育の中心に礼拝を位置づけており、時間を定めて礼拝を行っています（礼拝時間：青山・月～金 10時30分～11時 および 火 19時30分～20時、相模原・月～金 10時30分～11時）。大学礼拝は、キリスト教の信仰を土台とする学院の精神を最も具体的に示す場であるとともに、みなさんにキリスト教による人格教育を行う教育の場でもあります。また大学礼拝は教会における礼拝とは異なり、キリスト教信者だけの礼拝ではありません。礼拝出席は自由ですが、青山学院大学の独特な“スピリット”は礼拝においてよく表わされているので、大学礼拝を体験することなしに本学の教育を受けたとは言えないのです。

(2) キリスト教概論

大学の必修科目の一つとして、「キリスト教概論」があります。この講義は、本学建学の精神であるキリスト教の信仰の内容を学問的に研究し、聖書を通してキリスト教の教義、歴史、神学、実践などの問題を理解するとともに、キリスト教の意義を学ぶことを目的としています。大学礼拝とキリスト教概論とは密接な関係があり、そのため礼拝レポートがキリスト教概論の中に取り入れられています。その他数多くのキリスト教関連科目が青山スタンダード（テーマ別科目）、ソーパワープログラム科目、各学科科目のなかに配置され、みなさんの知的好奇心にチャレンジしています。

(3) 宗教センター活動

青山学院は、プロテスタント・キリスト教信仰の上に創立された学園であり、宗教センターは、特に、メソジスト教会の創始者、ジョンおよびチャールズ・ウェスレー兄弟の信仰的伝統を重んじ、キリスト教活動を行っています。青山キャンパスは間島記念館1階に、相模原キャンパスはC棟（チャペル）1階にそれぞれ宗教センターがあり、学生キリスト教活動の中心になっています。

各宗教センターでは、みなさんのために「聖書に親しむ会」、「キリスト教文化に親しむ会」、青山キリスト教学生会（A.C.F.）、聖歌隊、ハンドベル・クワイア、ゴスペル・クワイアまた、キリスト教図書の閲覧、講演会・コンサートの開催、研修旅行の実施などの活動が行われており、学生生活に色彩とバランスをあたえるために重要な役割を果たしています。さらに、各宗教センターには大学の専任教員でもある宗教主任（牧師）がおり、事務職員と協力して毎日みなさんのために宗教上の指導、アドバイス、教会紹介、カウンセリングなどの責任を負っています。この宗教センター活動は他大学とは異なる本学独特のシステムであり、みなさんの利用を待っています。活動の詳細は「本学におけるキリスト教活動のしおり」ならびに宗教センターWebサイトを参照してください。

Ⅱ．大学での学習活動について

1．大学での学習とは

カリキュラム

大学の授業科目、単位数、履修年次（どの学年で履修するか）を体系的に編成したものを「カリキュラム（教育課程）」といいます。所属する学部・学科のカリキュラムにそって学習を進め、最終的に、定められたカリキュラムの授業内容を修得することが、大学での学習の目的です。

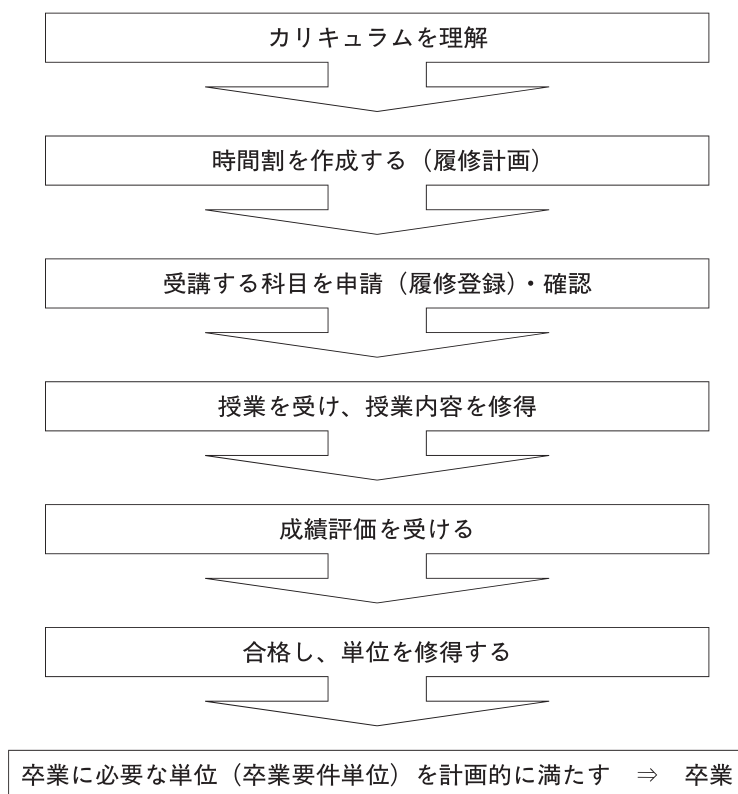
カリキュラムは入学年度別に定められており、卒業まで変更はありません。

各学部・学科のカリキュラムについては、「Ⅳ．学部履修要項」を参照してください。

履 修

各学部・学科のカリキュラムにそって配置された授業科目の受講を大学に申請することを「履修登録」、授業を受け、試験に合格して単位を得ることを「単位を修得する」といいます。この「履修登録」から「単位修得」までの一連の流れを「履修」といいます。

図式化すると以下ようになります。



大学では、カリキュラムで定められた範囲で履修する科目を選択することができますが、卒業に至るまでの過程は自己責任であるということを常に念頭に置いてください。

2. 単 位

単位制

単位制とは、卒業するために、在学年限内に所定の単位を修得しなければならない制度です。これは極めて厳格なもので、たとえ1単位であっても不足すると卒業できません。卒業に必要な単位数は、学部・学科ごとに定められています。詳しくは、「IV. 学部履修要項」の「卒業要件」を参照してください。

単位とは

単位とは、学習の成果を量的に表したものです。授業科目を履修し、出席回数、平常試験・定期試験またはレポート、その他担当教員が必要と認める学習作業の結果などによって、その授業科目に合格したと担当教員が判断したとき、所定の単位が与えられます。

単位数

単位数は、それぞれの授業科目ごとに定められており、授業形態によって算定方法が異なります。

大学設置基準による規定	1 単位の標準＝“45時間の学修が必要な内容”
-------------	-------------------------

本学での単位算定方法

講義・演習の科目では…	1 単位＝授業15～30時間分
実験・実習・実技（スポーツなど）の科目・集中科目では…	1 単位＝授業30～45時間分

15時間の講義科目（1 単位）を例にとると、“45時間の学修を必要とする内容”で1 単位、と規定されており、授業時間外に30時間の自習が前提となっています。

なお、ここでいう“1 時間”とは、授業時間45分を表します。本学での1 時限の授業は90分で行われているので、単位計算上は、1 時限＝“2 時間分の授業”となります。

半期の講義科目では、

15週×2 時間＝30時間分＝2 単位

となります。

実際の単位数

半期科目 (前期のみ、または後期のみの科目)	15週で完結 ・講義科目なら2 単位 ・演習科目なら2 単位または1 単位 ・実験・実習・実技科目なら1 単位
通年科目 (一年を通して行われる科目)	30週で完結 ・講義科目なら4 単位 ・演習科目なら4 単位または2 単位 ・実験・実習・実技科目なら2 単位

既修得単位の認定

新たに入学した1 年生で、本学入学以前に他大学・短期大学ですでに修得した単位があり、修得済み単位として認定を受けたい学生は、指定された期間(入学式翌日～前期授業開始日)に書類を所属キャンパスの教務窓口に出し申請してください。**60単位を超えない範囲**で各学部・学科の基準に従って単位が認定されます(大学学則第42条参照)。この申請は、入学した年度に限って可能であり、次年度以降に申請することはできません。

編入・転部または転学部・転学科した学生の場合は、それまで修得した単位のうち、各学部・学科が適当と認める科目の単位が認定されますので、指定された期間(入学手続時配付書類に記載)に書類を所属キャンパスの教務窓口に出し申請してください。

協定校・認定校留学による 単位認定

協定校留学・認定校留学の制度によって留学した場合は、帰国後所定の手続きをふむことにより、留学先で修得した単位が60単位を超えない範囲で各学部・学科の基準に従って認定されます。ただし、教員免許状取得希望者の場合、認定された科目の単位は、教員免許状取

3. 授業科目の
種類と配置
授業科目の種類

得に係る単位として証明されません。

各授業科目は、卒業要件として必ず履修・修得しなければならないか否かによって、以下の3つに区分されます。

授業科目の種類

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	指定されたいくつかの科目の中から選択履修し、各学部・学科所定の単位数を必ず修得しなければならない科目
選択科目	自由に選択履修し、必要単位数を修得する科目

上記の内容でわかるとおり、履修の際には、「必修科目」を優先して卒業要件単位を満たしてゆく必要があります。

また、授業の開講期間によって、1年を通じて実施する「通年科目」、前期あるいは後期で完結する「半期科目」、夏期・冬期休業期間などを利用して実施する「集中講義科目」に分かれます。

履修年次

「履修年次」とは、それぞれの授業科目を履修するのが望ましい学年のことです。履修年次は、4年間の学習を系統的行えるよう、カリキュラムに基づいて定められています。

履修年次は「IV. 学部履修要項」部分の科目配置表に記載されていますので、それに従って科目を履修してください。

原則として、現在の学年より上級の年次に配置されている授業科目を履修することはできませんが、現在の学年より下級の年次に配置されている授業科目であれば履修することができます。ただし、例外もありますので、「IV. 学部履修要項」で確認してください。

履修順序

各学部・学科には、段階的に学習を進めるために「履修順序」が設けられた授業科目があります。これは、ある授業科目の単位を修得しなければ、その上級科目として設けられている授業科目を履修することができない、というものです。

上級に設けられた授業科目は、初級の授業科目の内容をすでに修得していることを前提とし、その次の段階から授業を始めます。したがって、初級の授業科目と上級の授業科目を同時に履修することはできません。ただし、4年次留年生は、学部・学科によっては履修順序に関係なく履修できる場合もあります。

各学部・学科の履修順序については、「IV. 学部履修要項」に記載されています。

Ⅲ．履修について

1．履修計画

履修計画の立案

大学においては、各学生がカリキュラムにそって履修計画を立て、受講したい科目を選択します。

授業科目には、あらかじめ登録されている「事前登録科目」（必修科目等）があり、学生はそれ以外の時限について履修計画を立てることになります。

履修計画を立てるに当たっては、カリキュラムについてよく理解し、所属学部・学科で定められた必修科目の修得と、進級や卒業に必要な履修規定上の必要条件（進級条件・卒業要件）を満たすことを優先させます。

第一部では、1年間で履修申請できる単位数が決められています。下記の(1)～(4)にそって、履修計画を立ててください。

- (1) 年度初めのオリエンテーション期間中に行われる所属学部・学科のガイダンスに出席する。

ガイダンスでは、履修上の注意や授業科目の説明が行われますので、必ず出席して最新の情報を得てください。

- (2) カリキュラムの内容、特徴、意義について知る。

「Ⅳ．学部履修要項」の卒業要件単位表・科目配置表で、各授業科目がどのような分野に属しているかを確認してください。履修順序についても、ここで確認してください。

- (3) 各授業科目の講義内容を知る。

Web版『講義内容』（「学生ポータル」の「講義内容検索」よりアクセス可能）には、各授業の詳しい授業計画などが記載されています。履修しようと思う科目の内容をよく確認してください。具体的な授業内容を知りたい場合は、履修登録期間中に受講してみる、受講時に担当者に確認するなどの方法でも講義内容を確認できます。（履修登録期間終了後は、履修登録をしていない科目を受講することはできません。）

「Ⅳ．学部履修要項」の「履修年次」は履修が望ましい年次を表しています。履修順序などで履修が制限されることがありますので、「Ⅳ．学部履修要項」で必ず確認し、なるべく望ましい年次での履修を心がけてください。

- (4) 卒業に必要な科目と単位数、資格に必要な科目と単位数を知る。

卒業要件単位とは、卒業に必要な最低限の単位です。教員免許状および各種資格を取得するためには、これに加えてそれぞれに必要な所定の単位を修得しなければなりません。「Ⅳ．学部履修要項」、「Ⅹ．教職課程（教員免許状・各種資格）について」および冊子『教職課程履修の手引』を参照し、各自の目標に合った計画を立ててください。

履修計画上の注意

履修計画に際しては、以下のことに注意してください。

- (1) 同一時限に、2科目以上の授業科目を重複して履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）

- (2) 第一部では各学部・学科で1年間の履修登録単位数の限度（最高履修制限単位）が定められており、その単位数を超えて履修することはできません。

教職課程関連科目および教職課程科目については「Ⅳ．学部履修要項」および冊子『教職課程履修の手引』を参照してください。

- (3) 既に単位を修得した科目を、再度履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）

- (4) 他キャンパスの授業科目を履修する場合、90分間の移動時間が必要です。この移動時間の間に実施されている授業科目の履修はできません。

- (5) 他学部科目の履修を希望する場合、「Ⅳ．学部履修要項」の「他学部科目一覧表」を参

照してください。

- (6) 第一部の学生が第二部開講科目を履修することはできません。また、第二部の学生が第一部開講科目を履修することはできません。
- (7) 履修登録締め切り後、登録に不備や間違いがあったときは、当該科目の登録が無効となります。
- (8) 受講者数が著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果などを考慮して、クラスの分割・抽選などの措置を取ることがあります。

2. 履修登録

履修登録について

1. 履修登録

「履修登録」は、年度初頭に、その年度に履修を希望する授業科目を大学に登録する、大変重要な手続きです。(集中講義科目、後期に開講される科目も年度初頭に履修登録を行います。)一科目でも登録もれや登録間違いがあつてはなりません。『履修登録システム利用案内』をよく読み、各自の責任において、履修登録期間内に履修登録を完了してください。履修登録期間は「学生ポータル」で確認してください。

制限科目の応募締切日時は、個々の科目により異なりますので、注意してください。

2. 後期履修変更

後期に履修変更期間を設けます。前期科目の成績を確認したうえで再度履修を見直し、必要がある場合は Web 履修登録システムを使用して各自で履修の変更を行ってください。履修変更期間以降の修正は、一切認めません。後期履修変更期間は、「学生ポータル」で確認してください。

後期の履修変更の際は、次の5点に注意してください。

- (1) 履修制限単位内で、後期科目のみの修正を行うことができます。
- (2) 受講者を制限する科目(抽選・制限カード・受講許可等)に関わる変更はできません。
- (3) 通年科目を削除しなければならない変更はできません。
- (4) 前期に修得できなかった科目と同一名称科目の再履修はできません。
- (5) (2)~(4)の制限にかかわらず、学部学科等から特に指定があった場合は、それに従ってください。

後期履修変更期間中に追加できる単位数は次のとおりです。(第一部学生のみ)

後期履修変更期間に追加できる単位数 (後期科目のみ)	=	当該年度の 最高履修制限単位	-	前期修得単位数 + 前期に修得できなかった単位数 + 履修取消科目の単位数 + 通年科目の単位数
-------------------------------	---	-------------------	---	--

履修登録の方法

本学の履修登録は、基本的には Web 上のシステム「Web 履修登録システム」（パソコンまたは学内情報端末を使用）で行います。詳細については、冊子『履修登録システム利用案内』を参照してください。

履修登録方法は次のとおりです。

【登録番号と履修登録方法】

『授業時間割表』の登録番号表示	履修登録方法
数字 5 桁で表示されている	Web 履修登録システムを利用して、自分で登録できます。履修登録期間内であれば、自分で削除することもできます。
+++++	Web で抽選または選考を行う科目です。Web 履修登録システムの「制限科目申請」から応募してください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。曜日時限等に間違いのないよう、注意して応募してください。また、受付期間が科目によって異なりますので、注意してください。
*****	Web 以外で抽選または選考を行う科目です。所定の日時・場所（オリエンテーション期間中や初回授業等）で申請してください。申請方法については、『学年初頭行事』や『講義内容』、学部・学科等の指示に従ってください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。
#####	事前に登録済または履修登録期間中に大学側で登録を行う科目です。自分で履修登録する必要はありません。
-----	受講が許可された学生のみ登録できます。学部学科等の指示に従ってください。

【ペア科目】

ペア科目とは、同一授業科目で、週 2 回以上授業を行う科目です。『授業時間割表』には「ペア」と記載されています。『授業時間割表』に記載されている登録番号で登録してください。対応するほかの曜日・時限も自動的に登録されます。

【集中講義科目】

集中講義科目とは、曜日・時間にかかわらず、一定の期間に集中して授業を行う科目です。『授業時間割表』の各学部・学科注意事項を確認のうえ登録してください。

【「健康・スポーツ演習」・「スポーツ運動実習」】

『学年初頭行事』を参照のうえ、これらの科目に関するガイダンスに出席してください。

履修登録の確認と修正

履修登録最終日は、アクセスが多く、登録に時間がかかります。「混みあってアクセスできなかった」という理由は認められませんので、余裕をもって履修登録が完了するようにしてください。

エラーが表示されたら、適切に対処してください。自分で解決できない場合は、所属キャンパス教務窓口で相談してください。

登録や修正を行った後は、必ず「履修登録画面」で履修登録リストを印刷して誤りがないか確認してください。印刷した履修登録リストは、年度末まで保管してください。確認を怠ったために生じた問題について、大学側は一切責任を負いません。

履修登録を行ったつもりで登録されていなかった科目や、誤って登録してしまった科目については、間違えたまま授業に出席し試験を受けても単位を修得することができないばかりでなく、登録していない科目の試験を受けることは不正行為とみなされ、処分の対象となり

履修取消制度について

ます（『試験における不正行為者処分規則施行細則』第2条参照）ので注意してください。

期日までに履修登録をしない場合は、修学の意志がないものとして、大学学則第34条に基づき除籍処分となります。

授業の内容が勉強したいものと異なっていた場合、履修登録（または後期履修変更）期間終了後の一定期間内であれば履修を取りやめることができます。

詳細は以下のとおりです。

1) 対象者：全学部生

2) 対象科目：下記①、②を除く全科目

① 事前登録科目（履修登録期間中に大学側が登録する科目を含む）

② 制限科目

※ この他に学部・学科で対象外としている科目がある場合は「IV. 学部履修要項」に記載されていますので、参照してください。

※ 夏期集中科目（後期扱い）の取消は前期の履修取消期間に申請してください。

3) 履修取消科目の扱い：本制度を利用して取り消した前期科目と同一名称の科目を後期に履修することはできません。

4) 履修取消科目の単位の扱い：本制度を利用して取り消した科目の単位数は、当該年度の申請単位数に含まれます。

5) 履修取消科目の成績評価の表示：

① 成績通知書：「W」

② 成績証明書：記載しない。

履修取消申請方法

履修取消の申請は、所定の期間内に所属キャンパスの教務窓口でのみ受け付けます。申請の取り下げは一切認められません。履修取消申請受付期間は、「学生ポータル」で確認してください。

IV. 経営学部履修要項

2013年度入学者

【1】 経営学部（経営学科・マーケティング学科）の履修について	12
【2】 青山スタンダード科目履修方法および配置表	14
【3】 外国語科目	24
【4】 専門科目	
1. 経営学科	25
2. マーケティング学科	29
3. 演習科目の履修について	33
【5】 自由選択科目	35
他学部科目一覧表	36

経営学部履修要項（2013年度入学者）

【1】 経営学部（経営学科・マーケティング学科）の履修について

1. 卒業要件

(1)卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表に示す区分に従ってその単位を修得しなければなりません。ここに示す単位数は科目の種別ごとに要求される最低の単位数です。これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

卒業要件単位表（経営学科・マーケティング学科共通）

科目の種類		必選の別	必要単位	
青山スタンダード科目		必修	12	26
		選択必修	8	
		選択	6	
外国語科目	第一外国語科目	必修	8	
専門科目	A 群〔専門基礎科目〕	必修	8	74
	B 群〔共通専門科目〕	選択必修	16	
	C 群〔グローバルビジネス科目〕	選択必修	10	
	D 群〔経営学科専門科目〕	選択必修	16	
	E 群〔マーケティング学科専門科目〕			
	F 群〔経営学関連科目〕	選択	24	
	B～E 群より			
自由選択科目		選択	16	
総 計			124	

(2)学位について

経営学部にて4年以上（ただし、8年を限度とします）在学し、卒業に必要な要件を満たした学生には、学位記を与え、学士（経営学）の学位を授与します。

2. 最高履修制限単位

各年次で履修できる単位の限度は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなければなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合 計
44	44	46	48	182

3. 進級条件

2年次終了時に46単位（卒業要件単位）以上を修得し、その中に下記の科目が含まれていなければ3年次に進級することはできません。

- 経営学部第一外国語1年次必修科目（4単位）
- 経営学部A群必修科目（8単位）のうち4単位

4. 修得単位僅少者について

入学後の1年間（休学期間を除きます）で修得単位が28単位に満たない学生には、修学的意思を確認するとともに厳重注意を行います。更に入学後の2年間（休学期間を除きます）で修得単位が32単位に満たない学生は、成業の見込みのない学生として除籍されることがありますので、どちらにも該当することのないよう注意してください。

5. 編入学者について

- (1)編入学者には、以下のとおり、入学時の学年の履修条件が適用されます。
- 2 年次編入学者……………2012年度入学の一般学生と同じ履修条件が適用されます。
- 3 年次編入学者……………2011年度入学の一般学生と同じ履修条件が適用されます。
- (2)編入学年度の最高履修制限単位
- 2 年次編入学者については認定単位数が卒業に必要な最低単位数の 4 分の 1 未満、3 年次編入学者については 2 分の 1 未満の場合、編入学した年度に限りその差分を最高履修制限単位に追加して履修することができます。
- (3)履修順序
- 編入学者には、編入学した年度に限り、授業科目の履修順序は適用されません。

6. 外国人留学生の外国語科目の履修について

- 外国人留学生の外国語科目は、以下のとおり履修してください。
- A. 第一外国語科目の履修方法（24ページ参照）
- 第一外国語科目の必要単位
- 必修（8単位）
- 太字は必修科目
- | 授 業 科 目 | 単位 | 履修年次 | |
|-----------------|----|------|------------------------|
| 日 本 語 初 級 A - 1 | 1 | 1 | |
| 日 本 語 初 級 A - 2 | 1 | 1 | |
| 日 本 語 初 級 B - 1 | 1 | 1 | |
| 日 本 語 初 級 B - 2 | 1 | 1 | |
| 日 本 語 初 級 C - 1 | 1 | 1 | |
| 日 本 語 初 級 C - 2 | 1 | 1 | |
| 日 本 語 中 級 A - 1 | 1 | 2 | } いずれか 2 科目（2 単位）を選択必修 |
| 日 本 語 中 級 A - 2 | 1 | 2 | |
| 日 本 語 中 級 B - 1 | 1 | 2 | |
| 日 本 語 中 級 B - 2 | 1 | 2 | |
| 日 本 語 上 級 - 1 | 1 | 3 | |
| 日 本 語 上 級 - 2 | 1 | 3 | |
- 注 1）必修 8 単位を超えて修得した単位は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。
- 注 2）各授業科目の履修年次および履修順序に従って履修しなければなりません。
- 注 3）原則として第一外国語は「日本語」ですが、第一外国語を「英語」として履修するように指定を受けた者は一般学生と同じ科目を 8 単位修得してください。
- B. 言葉の技能（領域 F）（第二外国語科目）の履修方法
- 言葉の技能（領域 F）（第二外国語科目）の必要単位
- 必修（4 単位）
- フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語のうちから 1 外国語を履修してください。ただし、母語（第一言語）は第二外国語として履修できません。
- 注 1）入学手続時申請以外の第一外国語を履修することはできません。ただし、「スピーチ・クリニック」を修得した場合、その単位は自由選択科目に算入されます。
- 注 2）申請した第二外国語以外の言葉の技能〔領域 F〕科目の単位は、自由選択科目に算入されます。ただし、母語（第一言語）は履修できません。
- 注 3）本学入学以前に、高等学校あるいは海外などで既に学習したことのある学生が、その学力を「Ⅰ 修了者に準ずる」と認定された場合、Ⅱ の科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、学生ポータル「学年初頭行事」を参照してください。

【2】 青山スタンダード科目履修方法および配置表（2013年度入学者）

1. 全学部に通ずる教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に通ずる教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養を備えているという社会的評価を受けることを到達の目標とする。」として青山スタンダード科目を開講しています。

2. 履修方法

科 目 の 種 類				必修の別	必要単位
青 山 ス タ ン ダ ー ド 科 目	1) 教養コア	キリスト教理解関連科目		必修	2
	2) 技能コア	言葉の技能	英語	※ 1	
			第二外国語 ※ 2 ※ 3	必修	4
		身体の技能		必修 ※ 4	2
		情報の技能		必修	2
	3) テーマ別	キリスト教理解関連科目		必修	2
	4) 教養コア	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記 4 領域のうち 2 領域から「教養コア科目」を選択	選択必修	4
	5) 領域指定	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記領域より 4) で選択しなかった 2 領域から各 1 科目 (2 単位) ずつ選択。 (「教養コア科目」あるいは「テーマ別科目」いずれも可)	選択必修	4
フレッシュャーズ・セミナー、ウェルカム・レクチャー、キャリアデザイン・セミナー、教養コア科目、技能コア科目、テーマ別科目から選択。 (1)～5) で修得した科目は除く)				選択	6

- ※ 1 言葉の技能・英語は、所属する学部（学科）が開講する科目を履修します。詳しくは、所属する学部（学科）の外国語科目履修方法および配置表に関するページを参照してください。(英語スキルⅠ-1、Ⅰ-2を除く)
- ※ 2 第二外国語科目の中から 1 外国語を選択します（入学手続き時に申請されています）。
- ※ 3 第二外国語科目には、履修順序があります。
- ・第二外国語科目は、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます。
 - ・「インテンシブ・(第二外国語)」は週に半期 4 クラスをセットとし前後期で履修登録するものです。このうち前期 4 クラスのどれか一つでも不合格となれば後期 4 クラスを履修することはできません。
 - ・「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語)Ⅱ」あるいは「(第二外国語)会話(Ⅰ)」は、「(第二外国語)Ⅰ」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。
 - ・「(第二外国語)Ⅲ」は、「インテンシブ・(第二外国語)(A)～(D)-1」あるいは「(第二外国語)Ⅱ-2」の単位を修得した者のみが履修を認められます。
 - ・「(第二外国語)会話(Ⅱ)」は、「インテンシブ・(第二外国語)(A)～(D)-1」「(第二外国語)Ⅱ-2」あるいは「(第二外国語)会話(Ⅰ)-2」の単位を修得した者のみ履修を

認められます。

- ※ 4 教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修です。
- 必要単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
 - 第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
 - 受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。

3. 授業科目配置表

（太字は必修科目）

		授 業 科 目	単位	配置 年次	備 考
		フレッシュヤーズ・セミナー	2	1	1年生のみ
		ウェルカム・レクチャー	2	1	1年生のみ
		キャリアデザイン・セミナー	2	1	1年生のみ
教 養 コ ア 科 目		（キリスト教理解関連科目） キ リ ス ト 教 概 論 I	2	1	
		（人間理解関連科目） 自己理解（総合科目）	2	1	（総合科目）：複数の教員による担当
		自己理解（個別科目）	2	1	（個別科目）：一人の教員による担当
		（社会理解関連科目） 現代社会の諸問題（総合科目）	2	1	（総合科目）：複数の教員による担当
		現代社会の諸問題（個別科目）	2	1	（個別科目）：一人の教員による担当
		（自然理解関連科目） 科学・技術の視点（総合科目）	2	1	（総合科目）：複数の教員による担当
		科学・技術の視点（個別科目）	2	1	（個別科目）：一人の教員による担当
		（歴史理解関連科目） 歴史と人間（総合科目）	2	1	（総合科目）：複数の教員による担当
		歴史と人間（個別科目）	2	1	（個別科目）：一人の教員による担当
技 能 コ ア 科 目	英 日 語 本 ・ 語	英 語 ス キ ル I - 1	1	1	1年生のみ
		英 語 ス キ ル I - 2	1	1	1年生のみ
	言 葉 の 技 能 第 二 外 国 語	（第二外国語）I (A)-1	1	1	（第二外国語）はフランス語（フランス文学 科除く）、ドイツ語、スペイン語、中国語、 ロシア語、韓国語を指します。
		（第二外国語）I (A)-2	1	1	
		（第二外国語）I (B)-1	1	1	
		（第二外国語）I (B)-2	1	1	
		英 語 I - 1	1	1	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2 回履修し、計4単位修得してください。
		英 語 I - 2	1	1	
		英 語 （ I A ） - 1	1	1	外国人留学生のみ
		英 語 （ I A ） - 2	1	1	外国人留学生のみ
		英 語 （ I B ） - 1	1	1	外国人留学生のみ
		英 語 （ I B ） - 2	1	1	外国人留学生のみ
		日 本 語 I （ A ） - 1	1	1	外国人留学生のみ
		日 本 語 I （ A ） - 2	1	1	外国人留学生のみ
		日 本 語 I （ B ） - 1	1	1	外国人留学生のみ
		日 本 語 I （ B ） - 2	1	1	外国人留学生のみ
	身 体 の 技 能	健 康 ・ ス ポ ー ツ 演 習	2	1	教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化 政策・社会情報のみ必修
	情 報 の 技 能	情 報 ス キ ル I	2	1	
テ ー マ 別 科 目	キ リ ス ト 教 理 解 関 連 科 目 （ 領域A ）	キ リ ス ト 教 概 論 II	2	2・3	理工学部・社会情報学部は2年次 他は3年次配置
		旧 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4	
		新 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4	
		キ リ ス ト 教 生 命 倫 理	2	2・3・4	
		キ リ ス ト 教 政 治 倫 理	2	2・3・4	

テーマ別科目	キリスト教理解関連科目（領域A）	キリスト教と自然科学	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
		キリスト教環境倫理	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
		キリスト教音楽	2	2・3・4	
		キリスト教美術	2	2・3・4	
		メソジスト教会史	2	2・3・4	
		世界の諸宗教	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
		聖書の中の女性たち（旧約）	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
		聖書の中の女性たち（新約）	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
		サービス・ラーニングⅠ	2	2・3・4	
		サービス・ラーニングⅡ	2	2・3・4	
		海外語学・キリスト教文化研修	2	2・3・4	
	人間理解関連科目（領域B）	哲学 A	2	2・3・4	
		哲学 B	2	2・3・4	
		哲学の諸問題 A	2	2・3・4	
		哲学の諸問題 B	2	2・3・4	
		哲学の諸問題 C	2	2・3・4	
		哲学の諸問題 D	2	2・3・4	
		論理学 A	2	2・3・4	
		論理学 B	2	2・3・4	
		論理学の諸問題 A	2	2・3・4	
		論理学の諸問題 B	2	2・3・4	
		倫理学 A	2	2・3・4	
		倫理学 B	2	2・3・4	
		倫理学の諸問題 A	2	2・3・4	
		倫理学の諸問題 B	2	2・3・4	
		西洋倫理思想史 A	2	2・3・4	
		西洋倫理思想史 B	2	2・3・4	
		言語学 A	2	2・3・4	
		言語学 B	2	2・3・4	
		日本語学 A	2	2・3・4	
		日本語学 B	2	2・3・4	
		文学 A	2	2・3・4	
		文学 B	2	2・3・4	
		文学史 A	2	2・3・4	
		文学史 B	2	2・3・4	
		美術 A	2	2・3・4	
		美術 B	2	2・3・4	
		美術史 A	2	2・3・4	
		美術史 B	2	2・3・4	
		音楽 A	2	2・3・4	
		音楽 B	2	2・3・4	
		音楽史 A	2	2・3・4	

人間理解関連科目 (領域B)	音楽史 B	2	2・3・4	
	文化人類学 A	2	2・3・4	
人間理解関連科目 (領域B)	文化人類学 B	2	2・3・4	
	比較文化 A	2	2・3・4	
人間理解関連科目 (領域B)	比較文化 B	2	2・3・4	
	比較文化の諸問題 A	2	2・3・4	
人間理解関連科目 (領域B)	比較文化の諸問題 B	2	2・3・4	
	心理学 A	2	2・3・4	心理学科除く
人間理解関連科目 (領域B)	心理学 B	2	2・3・4	心理学科除く
	教育学 A	2	2・3・4	
人間理解関連科目 (領域B)	教育学 B	2	2・3・4	
	平和を考える A	2	2・3・4	
人間理解関連科目 (領域B)	平和を考える B	2	2・3・4	
	人間関係とコミュニケーション A	2	2・3・4	
人間理解関連科目 (領域B)	人間関係とコミュニケーション B	2	2・3・4	
	文化とコミュニケーション A	2	2・3・4	国際政治経済学部除く
人間理解関連科目 (領域B)	文化とコミュニケーション B	2	2・3・4	国際政治経済学部除く
テーマ別科目	法学（日本国憲法を含む）A	2	2・3・4	法学部除く。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修 できます。
	法学（日本国憲法を含む）B	2	2・3・4	
テーマ別科目	日本の法と社会 A	2	2・3・4	
	日本の法と社会 B	2	2・3・4	
テーマ別科目	国際政治経済学 A	2	2・3・4	
	国際政治経済学 B	2	2・3・4	
テーマ別科目	国際関係概論 A	2	2・3・4	
	国際関係概論 B	2	2・3・4	
テーマ別科目	社会学 A	2	2・3・4	
	社会学 B	2	2・3・4	
テーマ別科目	現代社会と教育人間学 A	2	2・3・4	
	現代社会と教育人間学 B	2	2・3・4	
テーマ別科目	経済学 A	2	2・3・4	経済学部除く
	経済学 B	2	2・3・4	経済学部除く
テーマ別科目	情報社会科学 A	2	2・3・4	
	情報社会科学 B	2	2・3・4	
テーマ別科目	情報社会論	2	2・3・4	
	社会情報論	2	2・3・4	
テーマ別科目	人口問題 A	2	2・3・4	
	人口問題 B	2	2・3・4	
テーマ別科目	フェミニズム A	2	2・3・4	
	フェミニズム B	2	2・3・4	
テーマ別科目	民族問題 A	2	2・3・4	
	民族問題 B	2	2・3・4	
テーマ別科目	マスメディアと社会	2	2・3・4	

テ ー マ 別 科 目	社 会 理 解 関 連 科 目 (領域C)	デ ー タ サ イ エ ン ス	2	2・3・4	
		福 祉 と 人 間 A	2	2・3・4	
		福 祉 と 人 間 B	2	2・3・4	
		グローバリゼーションと WTO	2	2・3・4	
		日 本 農 業 と W T O	2	2・3・4	
		環 境 問 題 と 社 会	2	2・3・4	NPO 環境平和持続の会寄附講座
	自 然 理 解 関 連 科 目 (領域D)	技 術 史 A	2	2・3・4	
		技 術 史 B	2	2・3・4	
		日 常 生 活 の 数 理	2	2・3・4	
		数 理 科 学 入 門 I	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く
		数 理 科 学 入 門 II	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く
		数 理 科 学 の 視 点	2	2・3・4	
		数 理 モ デ ル	2	2・3・4	
		自 然 科 学 概 論 A	2	2・3・4	
		自 然 科 学 概 論 B	2	2・3・4	
		文化としての科学・技術 A	2	2・3・4	
		文化としての科学・技術 B	2	2・3・4	
		現 代 物 理	2	2・3・4	
		ラ イ フ サ イ エ ン ス	2	2・3・4	
		ゲ ノ ム	2	2・3・4	
		生 物 と 地 球 環 境	2	2・3・4	
		地 球 環 境 保 全	2	2・3・4	
		バイオテクノロジーと生命倫理	2	2・3・4	
		地球観（自然と人の倫理）	2	2・3・4	
		生 命 と 地 球 の 歴 史	2	2・3・4	
		宇 宙 科 学	2	2・3・4	
		野 鳥 の 生 態	2	2・3・4	
		鳥 類 と 生 物 多 様 性	2	2・3・4	
		植 物 生 態 学	2	2・3・4	
		先端エレクトロニクス	2	2・3・4	
		環 境 科 学 A	2	2・3・4	
		環 境 科 学 B	2	2・3・4	
		自 然 地 理 学 A	2	2・3・4	
		自 然 地 理 学 B	2	2・3・4	
		科 学 史	2	2・3・4	
		生命と生態系（環境と生物）	2	2・3・4	
		生 命 の 連 続 （ 遺 伝 ）	2	2・3・4	
		か た ち の 科 学	2	2・3・4	
		自 然 史	2	2・3・4	
		自 然 観 の 変 遷	2	2・3・4	
		青 山 学 院 大 学 の 歴 史	2	2・3・4	
		日 本 社 会 史 A	2	2・3・4	

テ ー マ 別 科 目	歴史理解関連科目 (領域E)	日 本 社 会 史 B	2	2・3・4	
		日 本 社 会 史 C	2	2・3・4	
		中 国 史 A	2	2・3・4	
		中 国 史 B	2	2・3・4	
		ヨ ー ロ ッ パ 史 A	2	2・3・4	
		ヨ ー ロ ッ パ 史 B	2	2・3・4	
		ヨ ー ロ ッ パ 史 C	2	2・3・4	
		現 代 史 A	2	2・3・4	
		現 代 史 B	2	2・3・4	
		現 代 史 C	2	2・3・4	
		現 代 史 D	2	2・3・4	
		考 古 学 A	2	2・3・4	
		考 古 学 B	2	2・3・4	
		科 学 思 想 史 A	2	2・3・4	
	言葉の技能 (領域F)	インテンシブ・(第二外国語)(A)-1	1	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		インテンシブ・(第二外国語)(A)-2	1	2・3・4	
		インテンシブ・(第二外国語)(B)-1	1	2・3・4	
		インテンシブ・(第二外国語)(B)-2	1	2・3・4	
		インテンシブ・(第二外国語)(C)-1	1	2・3・4	
		インテンシブ・(第二外国語)(C)-2	1	2・3・4	
		インテンシブ・(第二外国語)(D)-1	1	2・3・4	
		インテンシブ・(第二外国語)(D)-2	1	2・3・4	
		(第二外国語)Ⅱ(A)-1	1	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
		(第二外国語)Ⅱ(A)-2	1	2・3・4	
		(第二外国語)Ⅱ(B)-1	1	2・3・4	
		(第二外国語)Ⅱ(B)-2	1	2・3・4	
		(第二外国語)Ⅱ(C)-1	1	2・3・4	
		(第二外国語)Ⅱ(C)-2	1	2・3・4	
		(第二外国語)Ⅱ-1	1	2・3・4	(第二外国語)はロシア語、韓国語を指します。
		(第二外国語)Ⅱ-2	1	2・3・4	
		英 語 Ⅱ - 1	1	2・3・4	フランス文学科のみ
		英 語 Ⅱ - 2	1	2・3・4	
		英 語 (ⅡA)-1	1	2・3・4	外国人留学生のみ
		英 語 (ⅡA)-2	1	2・3・4	
		英 語 (ⅡB)-1	1	2・3・4	
		英 語 (ⅡB)-2	1	2・3・4	
		日 本 語 Ⅱ - 1	1	2・3・4	外国人留学生のみ
		日 本 語 Ⅱ - 2	1	2・3・4	
		(第二外国語)Ⅲ-1	1	2・3・4	(第二外国語)はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		(第二外国語)Ⅲ-2	1	2・3・4	
		フ ラ ン ス 語 Ⅲ (A)-1	1	2・3・4	フランス文学科除く
		フ ラ ン ス 語 Ⅲ (A)-2	1	2・3・4	

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能（領域F）	フランス語Ⅲ（B）-1	1	2・3・4	フランス文学科除く
		フランス語Ⅲ（B）-2	1	2・3・4	
		英語Ⅲ-1	1	2・3・4	フランス文学科のみ
		英語Ⅲ-2	1	2・3・4	
		英語（Ⅲ）-1	1	2・3・4	外国人留学生のみ
		英語（Ⅲ）-2	1	2・3・4	
		日本語Ⅲ-1	1	2・3・4	外国人留学生のみ
		日本語Ⅲ-2	1	2・3・4	
		（第二外国語）会話（Ⅰ）-1	1	2・3・4	（第二外国語）はフランス語（フランス文学科除く）、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語（フランス文学科のみ）を指します。
		（第二外国語）会話（Ⅰ）-2	1	2・3・4	
		（第二外国語）会話（Ⅱ）-1	1	2・3・4	（第二外国語）はフランス語（フランス文学科除く）、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		（第二外国語）会話（Ⅱ）-2	1	2・3・4	
		日本語（Ⅰ）A	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅰ）B	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅰ）C	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅰ）D	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅱ）A	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅱ）B	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅱ）C	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅱ）D	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅲ）A	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅲ）B	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅲ）C	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅲ）D	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅳ）A	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅳ）B	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅳ）C	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅳ）D	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅴ）A	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅴ）B	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅴ）C	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅴ）D	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅵ）A	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅵ）B	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅵ）C	1	3	交換留学生のみ
		日本語（Ⅵ）D	1	3	交換留学生のみ
		日本事情（Ⅰ）	2	3	交換留学生のみ
		日本事情（Ⅱ）	2	3	交換留学生のみ
		日本事情（Ⅲ）	2	3	交換留学生のみ
		日本事情（Ⅳ）	2	3	交換留学生のみ

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	日 本 事 情 (V)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (VI)	2	3	交換留学生のみ
		アメリカ合衆国の社会と文化 A	2	2・3・4	
		アメリカ合衆国の社会と文化 B	2	2・3・4	
		アメリカ合衆国の社会と文化 C	2	2・3・4	
		英 語 圏 の 社 会 と 文 化 A	2	2・3・4	国際政治経済学部除く
		英 語 圏 の 社 会 と 文 化 B	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化 C	2	2・3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化 C	2	2・3・4	
		スペイン語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
		スペイン語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
		スペイン語圏の社会と文化 C	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化 C	2	2・3・4	
		ロシア語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
		ロシア語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化 A	2	2・3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化 B	2	2・3・4	
		イスラム圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
		イスラム圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
		日 本 学 A	2	2・3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
		日 本 学 B	2	2・3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
		English Studies A	2	2・3・4	
		English Studies B	2	2・3・4	
		English Studies C	2	2・3・4	
		English Studies E	2	2・3・4	
		こ と ば の 研 究 A	2	2・3・4	
		こ と ば の 研 究 B	2	2・3・4	
		少数民族の社会と文化 A	2	2・3・4	
		少数民族の社会と文化 B	2	2・3・4	
		民 族 文 化 論 A	2	2・3・4	
		民 族 文 化 論 B	2	2・3・4	
	身体 の 技 能 (領域G)	健 康 医 学	2	2・3・4	
		身体 of 仕組みと病気 A	2	2・3・4	
		身体 of 仕組みと病気 B	2	2・3・4	
		ス ポ ー ツ 生 理 学	2	2・3・4	
		スポーツバイオメカニクス	2	2・3・4	

テーマ別科目	身体 の 技能 (領域G)	ス ポ ー ツ 心 理 学	2	2・3・4	
		動 き の 人 間 学	2	2・3・4	
		医 療 社 会 学	2	2・3・4	
		ス ポ ー ツ 運 動 実 習	1	2・3・4	4回まで重複履修を認めます。 教員免許状取得申請者は、1年次から履修 できます。
		アドバンストスポーツ実習	2	2・3・4	
	情 報 の 技能 (領域H)	プ ロ グ ラ ミ ン グ 基 礎 I	2	2・3・4	
		プ ロ グ ラ ミ ン グ 基 礎 II	2	2・3・4	
		情 報 ス キ ル II	2	2・3・4	
		e ラーニングの法的課題入門	2	2・3・4	
	キ ャ リ ア の 技能 (領域I)	キ ャ リ ア デ ザ イ ン 基 礎	2	2・3・4	
		キ ャ リ ア デ ザ イ ン 応 用	2	3・4	
		仕 事 力 基 礎 論	2	3・4	
		日 本 語 文 章 作 成 演 習	2	2・3・4	
		国 際 ビ ジ ネ ス 入 門 A	2	2・3・4	
		国 際 ビ ジ ネ ス 入 門 B	2	2・3・4	
		感 性 ビ ジ ネ ス A ーファッション産業のフロンティアー	2	2・3・4	
		感 性 ビ ジ ネ ス B ーファッション産業のフロンティアー	2	2・3・4	
		感 性 ビ ジ ネ ス C ーファッション・ビジネス戦略論ー	2	2・3・4	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		感 性 ビ ジ ネ ス D ーファッション・ビジネス戦略論ー	2	2・3・4	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		パーソナル・マネー・マネジメント入門	2	2・3・4	三井生命寄附講座
		企業のモノづくりと人づくりのリテラシー	2	2・3・4	
		国際ビジネスと海外事情 A	2	2・3・4	
		国際ビジネスと海外事情 B	2	2・3・4	
		現 代 金 融 の 諸 問 題	2	2・3・4	金融青山会寄附講座
		ファイナンシャルプランニング入門	2	2・3・4	(株)近代セールス社寄附講座
		ファイナンシャルプランニング基礎	2	2・3・4	(株)近代セールス社寄附講座
		囲碁で養うロジカルシンキング	2	2・3・4	公益財団法人日本棋院寄附講座
		ファッション流通ビジネス論	2	2・3・4	
		海 外 語 学 ・ 文 化 研 修 I	2	2・3・4	
		海 外 語 学 ・ 文 化 研 修 II	2	2・3・4	
		海 外 語 学 ・ 文 化 研 修 III	2	2・3・4	
		ビジネスコミュニケーション	2	2・3・4	
		世 界 遺 産 入 門	2	2・3・4	NPO法人世界遺産アカデミー寄附講座

【3】 外国語科目

第一外国語科目履修方法
および配置表

(1)第一外国語科目の必要単位 [] 内は単位数

必修（8単位）

- 英語集中A [1]
- 英語総合A [1]
- 英語集中B [1]
- 英語総合B [1]
- 英語集中C [1]
- 英語総合C [1]
- 英語集中D [1]
- 英語総合D [1]

注1）再履修者は、必ず再履修者のためのクラスで受講しなければなりません。

注2）他学部の第一外国語科目は履修できません。

注3）外国人留学生の第一外国語科目履修方法については、13ページ「6. 外国人留学生の外国語科目の履修について」を参照してください。

(2)第一外国語科目配置表

太字は必修科目

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
英 語 集 中 A	1	1	英 語 総 合 A	1	1
英 語 集 中 B	1	1	英 語 総 合 B	1	1
英 語 集 中 C	1	2	英 語 総 合 C	1	2
英 語 集 中 D	1	2	英 語 総 合 D	1	2

外国人留学生用

授 業 科 目	単位	履修年次	履 修 順 序
日 本 語 初 級 A - 1	1	1	
日 本 語 初 級 A - 2	1	1	「日本語初級 A-1」 修得者のみ履修可
日 本 語 初 級 B - 1	1	1	
日 本 語 初 級 B - 2	1	1	「日本語初級 B-1」 修得者のみ履修可
日 本 語 初 級 C - 1	1	1	
日 本 語 初 級 C - 2	1	1	「日本語初級 C-1」 修得者のみ履修可
日 本 語 中 級 A - 1	1	2	
日 本 語 中 級 A - 2	1	2	「日本語中級 A-1」 修得者のみ履修可
日 本 語 中 級 B - 1	1	2	
日 本 語 中 級 B - 2	1	2	「日本語中級 B-1」 修得者のみ履修可
日 本 語 上 級 - 1	1	3	
日 本 語 上 級 - 2	1	3	「日本語上級-1」 修得者のみ履修可

【4】 専門科目

専門科目の履修方法および科目配置表

1. 経営学科

(1)専門科目の必要単位 [] 内は単位数

必修 (8単位)

A 群 (専門基礎科目)

マネジメント基礎 A [2]

アカウンティング基礎Ⅰ [2]

マネジメント基礎 B [2]

アカウンティング基礎Ⅱ [2]

選択必修 (42単位)

① B 群 [共通専門科目] より16単位

② C 群 [グローバルビジネス科目] より10単位

③ D 群 [経営学科専門科目] および E 群 [マーケティング学科専門科目] より合計16単位

選択 (24単位)

F 群 [経営学関連科目] および B～E 群より合計24単位

(2)専門科目配置表 (経営学科生用)

A 群 (専門基礎科目)

太字は必修科目

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
マネジメント基礎 A	2	1		アカウンティング基礎Ⅰ	2	1	
マネジメント基礎 B	2	1		アカウンティング基礎Ⅱ	2	1	

B 群 (共通専門科目)

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
経営データ分析のための基礎解析入門Ⅰ	2	1	隔年開講	財務管理論 A	2	2	
経営データ分析のための基礎解析入門Ⅱ	2	1	隔年開講	財務管理論 B	2	2	
経営データ分析のための線形代数入門Ⅰ	2	1	隔年開講	事業戦略論Ⅰ	2	2	
経営データ分析のための線形代数入門Ⅱ	2	1	隔年開講	事業戦略論Ⅱ	2	2	
情報ネットワークリテラシ	2	1		ビジネスゲームで学ぶ会計	2	2	
商学基礎論Ⅰ	2	1		企業分析論	2	2	
商学基礎論Ⅱ	2	1		マーケティング論Ⅰ	2	2	
ファイナンス入門	2	1		マーケティング論Ⅱ	2	2	
ミクロ経済学基礎Ⅰ	2	1		流通論Ⅰ	2	2	
ミクロ経済学基礎Ⅱ	2	1		流通論Ⅱ	2	2	
スポーツマネジメントⅠ	2	1		財務会計論Ⅰ	2	2	
スポーツマネジメントⅡ	2	1		財務会計論Ⅱ	2	2	
経営史 A	2	2		管理会計論Ⅰ	2	2	
経営史 B	2	2		管理会計論Ⅱ	2	2	
経営管理論Ⅰ	2	2		中級簿記Ⅰ	2	2	
経営管理論Ⅱ	2	2		中級簿記Ⅱ	2	2	
経営組織論Ⅰ	2	2		原価計算論	2	2	
経営組織論Ⅱ	2	2		ファイナンスⅠ	2	2	
企業情報戦略Ⅰ	2	2		ファイナンスⅡ	2	2	
企業情報戦略Ⅱ	2	2		国際文化理解Ⅰ	2	2	

経営学科

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
国際文化理解Ⅱ	2	2		交通論Ⅱ	2	3	
経営基礎演習Ⅰ	2	2のみ	詳細はP.33参照	コーポレート・ファイナンスⅠ	2	3	
経営基礎演習Ⅱ	2	2のみ		コーポレート・ファイナンスⅡ	2	3	
企業法務Ⅰ	2	3		リスク・マネジメント論Ⅰ	2	3	
企業法務Ⅱ	2	3		リスク・マネジメント論Ⅱ	2	3	
交通論Ⅰ	2	3		経営学部インターンシップ	2	2	認定用

C 群（グローバルビジネス科目）

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
国際文化演習Ⅰ	2	3		Academic Presentation	2	3	英語講義
国際文化演習Ⅱ	2	3		アメリカ文化論Ⅰ	2	3	
企業英語特講Ⅰ	2	1		アメリカ文化論Ⅱ	2	3	
企業英語特講Ⅱ	2	1		イギリス文化論Ⅰ	2	3	
International Business EnglishⅠ	2	1	英語講義	イギリス文化論Ⅱ	2	3	
International Business EnglishⅡ	2	1	英語講義	ユダヤ文化とビジネスⅠ	2	3	
Global CommunicationⅠ	2	1	英語講義	ユダヤ文化とビジネスⅡ	2	3	
Global CommunicationⅡ	2	1	英語講義	英語圏社会・文化研究Ⅰ	2	3	
コミュニケーション特論Ⅰ	2	1		英語圏社会・文化研究Ⅱ	2	3	
コミュニケーション特論Ⅱ	2	1		世界の言語文化Ⅰ	2	3	
国際貿易論Ⅰ	2	2		世界の言語文化Ⅱ	2	3	
国際貿易論Ⅱ	2	2		現代韓国社会事情Ⅰ	2	3	
国際ビジネス環境論 A	2	2		現代韓国社会事情Ⅱ	2	3	
国際ビジネス環境論 B	2	2		Market and Business Environment	2	3	英語講義
Globalization and Emerging Countries A	2	2	英語講義	国際マーケティング	2	3	
Globalization and Emerging Countries B	2	2	英語講義	国際経営論Ⅰ	2	3	
多角的貿易体制概論 A	2	3		国際経営論Ⅱ	2	3	
多角的貿易体制概論 B	2	3		キャリア開発（コーチング入門）	2	3	寄附講座 いずれか一方のみ 履修可。 Vは英語講義。
Effective Negotiation	2	3	英語講義	Career Development (Introduction to Coaching)	2	3	
Written Agreements	2	3	英語講義	グローバル・ビジネス研修	2	1	認定用
Effective Speech	2	3	英語講義				

D 群（経営学科専門科目）

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
経営データ分析基礎Ⅰ	2	1		証券投資論Ⅰ	2	2	
経営データ分析基礎Ⅱ	2	1		証券投資論Ⅱ	2	2	
サプライチェーンと意思決定法 A	2	2		意思決定会計論	2	2	
サプライチェーンと意思決定法 B	2	2		国際会計論Ⅰ	2	2	
グローバル製品戦略Ⅰ	2	2		国際会計論Ⅱ	2	2	
グローバル製品戦略Ⅱ	2	2		制度会計論 A	2	2	

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
制度会計論 B	2	2		財務コンサルティング論Ⅱ	2	3	
戦略管理会計Ⅰ	2	2		会計情報論Ⅰ	2	3	
戦略管理会計Ⅱ	2	2		会計情報論Ⅱ	2	3	
予算管理論	2	2		会計・ファイナンス特論 A	2	3	
創業論	2	2		会計・ファイナンス特論 B	2	3	
ビジネスアイデア論	2	2		企業評価論Ⅰ	2	3	隔年開講
サプライチェーン・マネジメント A	2	3		企業評価論Ⅱ	2	3	隔年開講
サプライチェーン・マネジメント B	2	3		実証会計論Ⅰ	2	3	隔年開講
経営戦略論Ⅰ	2	3		実証会計論Ⅱ	2	3	隔年開講
経営戦略論Ⅱ	2	3		財務分析論Ⅰ	2	3	
経営データ分析応用Ⅰ	2	3		財務分析論Ⅱ	2	3	
経営データ分析応用Ⅱ	2	3		監査論Ⅰ	2	3	隔年開講
事業創造戦略論	2	3		監査論Ⅱ	2	3	隔年開講
顧客創造戦略論	2	3		税務会計論Ⅰ	2	3	隔年開講
人材育成論Ⅰ	2	3		税務会計論Ⅱ	2	3	隔年開講
人材育成論Ⅱ	2	3		競争戦略論Ⅰ	2	3	
人的資源管理論Ⅰ	2	3		競争戦略論Ⅱ	2	3	
人的資源管理論Ⅱ	2	3		産業労働衛生論	2	3	
組織心理学Ⅰ	2	3		ヘルスケア経営論	2	3	
組織心理学Ⅱ	2	3		ビジネスモデル論	2	3	
マネジメントサイエンスⅠ	2	3		ビジネスプランニング論	2	3	
マネジメントサイエンスⅡ	2	3		ベンチャー企業経営論	2	3	
人間行動の多面的分析 A	2	3		現代の証券	2	3	野村証券寄附講座
人間行動の多面的分析 B	2	3		経営演習Ⅰ（１）	2	3のみ	詳細はP.33参照
戦略・マネジメント特論 A	2	3		経営演習Ⅰ（２）	2	3のみ	
戦略・マネジメント特論 B	2	3		経営演習Ⅱ（１）	4	4のみ	
コストマネジメント	2	3		経営演習Ⅱ（２）	4	4のみ	
財務コンサルティング論Ⅰ	2	3					

E 群（マーケティング学科専門科目）

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
流通情報システム論 A	2	3		マーケティング・コミュニケーション	2	3	
流通情報システム論 B	2	3		サービスマーケティング	2	3	
マーケティング特論 A	2	3		ソーシャルマーケティング	2	3	
マーケティング特論 B	2	3		関係性マーケティング	2	3	
マーケティング特論 C	2	3		ブランド・マネジメント	2	3	
マーケティング特論 D	2	3		消費者行動論	2	3	
マーケティング特論 E	2	3		マーケティング・リサーチ	2	3	
マーケティング特論 F	2	3		マクロ・マーケティング A	2	3	
広告コミュニケーション	2	3		Macromarketing B	2	3	英語講義

経営学科

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
流通政策 A	2	3		流通政策 B	2	3	

F 群（経営学関連科目）

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
経済原論Ⅰ	2	2		産業組織論Ⅰ	2	3	
経済原論Ⅱ	2	2		産業組織論Ⅱ	2	3	
経済政策論Ⅰ	2	2		民法 A	2	3	
経済政策論Ⅱ	2	2		民法 B	2	3	
財政学Ⅰ	2	2		民法 C	2	3	
財政学Ⅱ	2	2		民法 D	2	3	
金融論Ⅰ	2	2		商法 A（Ⅰ）	2	3	
金融論Ⅱ	2	2		商法 A（Ⅱ）	2	3	
経済史概論Ⅰ	2	2		商法 B	2	3	
経済史概論Ⅱ	2	2		商法 C	2	3	
国際経済学Ⅰ	2	2		経済法 A	2	3	
国際経済学Ⅱ	2	2		経済法 B	2	3	
日本経済論Ⅰ	2	2		労働法 A	2	3	
日本経済論Ⅱ	2	2		労働法 B	2	3	
国際開発経済論Ⅰ	2	3		国際法 A	2	3	
国際開発経済論Ⅱ	2	3		国際法 B	2	3	
地域経済学Ⅰ	2	3		比較文化論Ⅰ	2	3	
地域経済学Ⅱ	2	3		比較文化論Ⅱ	2	3	

2. マーケティング学科

(1)専門科目の必要単位 [] 内は単位数

必修 (8単位)

A 群 (専門基礎科目)

マーケティング・ベーシック I [2]

マーケティング論 I [2]

マーケティング・ベーシック II [2]

マーケティング論 II [2]

選択必修 (42単位)

① B 群 [共通専門科目] より16単位

※準必修科目 (6 単位): 履修は必須ですが、単位修得が卒業要件ではありません。

② C 群 [グローバルビジネス科目] より10単位

③ D 群 [経営学科専門科目] および E 群 [マーケティング学科専門科目] より合計16単位

選択 (24単位)

F 群 [経営学関連科目] および B~E 群より合計24単位

(2)専門科目配置表 (マーケティング学科生用)

A 群 (専門基礎科目)

太字は必修科目

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
マーケティング・ベーシック I	2	1		マーケティング論 I	2	2	
マーケティング・ベーシック II	2	1		マーケティング論 II	2	2	

B 群 (共通専門科目)

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
アカウンティング基礎 I	2	1	準必修科目	企業情報戦略 II	2	2	
アカウンティング基礎 II	2	1	準必修科目	財務管理論 I	2	2	
ミクロ経済学基礎 I	2	1	準必修科目	財務管理論 II	2	2	
ミクロ経済学基礎 II	2	1		事業戦略論 I	2	2	
経営データ分析のための基礎解析入門 I	2	1	隔年開講	事業戦略論 II	2	2	
経営データ分析のための基礎解析入門 II	2	1	隔年開講	ビジネスゲームで学ぶ会計	2	2	
経営データ分析のための線形代数入門 I	2	1	隔年開講	企業分析論	2	2	
経営データ分析のための線形代数入門 II	2	1	隔年開講	流通論 I	2	2	
情報ネットワークリテラシ	2	1		流通論 II	2	2	
経営学基礎論 A	2	1		財務会計論 I	2	2	
経営学基礎論 B	2	1		財務会計論 II	2	2	
ファイナンス入門	2	1		管理会計論 I	2	2	
スポーツマネジメント I	2	1		管理会計論 II	2	2	
スポーツマネジメント II	2	1		中級簿記 I	2	2	
経営史 A	2	2		中級簿記 II	2	2	
経営史 B	2	2		原価計算論	2	2	
経営管理論 I	2	2		ファイナンス I	2	2	
経営管理論 II	2	2		ファイナンス II	2	2	
経営組織論 I	2	2		国際文化理解 I	2	2	
経営組織論 II	2	2		国際文化理解 II	2	2	
企業情報戦略 I	2	2		経営基礎演習 I	2	2のみ	詳細はP.33参照

マーケティング学科

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
経営基礎演習Ⅱ	2	2のみ	詳細はP.33参照	コーポレート・ファイナンスⅠ	2	3	
企業法務Ⅰ	2	3		コーポレート・ファイナンスⅡ	2	3	
企業法務Ⅱ	2	3		リスク・マネジメント論Ⅰ	2	3	
交通論Ⅰ	2	3		リスク・マネジメント論Ⅱ	2	3	
交通論Ⅱ	2	3		経営学部インターンシップ	2	2	認定用

C 群（グローバルビジネス科目）

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
国際文化演習Ⅰ	2	3		Academic Presentation	2	3	英語講義
国際文化演習Ⅱ	2	3		アメリカ文化論Ⅰ	2	3	
企業英語特講Ⅰ	2	1		アメリカ文化論Ⅱ	2	3	
企業英語特講Ⅱ	2	1		イギリス文化論Ⅰ	2	3	
International Business EnglishⅠ	2	1	英語講義	イギリス文化論Ⅱ	2	3	
International Business EnglishⅡ	2	1	英語講義	ユダヤ文化とビジネスⅠ	2	3	
Global CommunicationⅠ	2	1	英語講義	ユダヤ文化とビジネスⅡ	2	3	
Global CommunicationⅡ	2	1	英語講義	英語圏社会・文化研究Ⅰ	2	3	
コミュニケーション特論Ⅰ	2	1		英語圏社会・文化研究Ⅱ	2	3	
コミュニケーション特論Ⅱ	2	1		世界の言語文化Ⅰ	2	3	
国際貿易論Ⅰ	2	2		世界の言語文化Ⅱ	2	3	
国際貿易論Ⅱ	2	2		現代韓国社会事情Ⅰ	2	3	
国際ビジネス環境論 A	2	2		現代韓国社会事情Ⅱ	2	3	
国際ビジネス環境論 B	2	2		Market and Business Environment	2	3	英語講義
Globalization and Emerging Countries A	2	2	英語講義	国際マーケティング	2	3	
Globalization and Emerging Countries B	2	2	英語講義	国際経営論Ⅰ	2	3	
多角的貿易体制概論 A	2	3		国際経営論Ⅱ	2	3	
多角的貿易体制概論 B	2	3		キャリア開発（コーチング入門）	2	3	寄附講座 いずれか一方のみ 履修可。 Ⅴは英語講義。
Effective Negotiation	2	3	英語講義	Career Development (Introduction to Coaching)	2	3	
Written Agreements	2	3	英語講義	グローバル・ビジネス研修	2	1	認定用
Effective Speech	2	3	英語講義				

D 群（経営学科専門科目）

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
サプライチェーンと意思決定法 A	2	2		国際会計論Ⅰ	2	2	
サプライチェーンと意思決定法 B	2	2		国際会計論Ⅱ	2	2	
グローバル製品戦略Ⅰ	2	2		制度会計論 A	2	2	
グローバル製品戦略Ⅱ	2	2		制度会計論 B	2	2	
証券投資論Ⅰ	2	2		戦略管理会計Ⅰ	2	2	
証券投資論Ⅱ	2	2		戦略管理会計Ⅱ	2	2	
意思決定会計論	2	2		予算管理論	2	2	

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
サプライチェーン・マネジメント A	2	3		財務コンサルティング論Ⅱ	2	3	
サプライチェーン・マネジメント B	2	3		会計情報論Ⅰ	2	3	
経営戦略論Ⅰ	2	3		会計情報論Ⅱ	2	3	
経営戦略論Ⅱ	2	3		会計・ファイナンス特論 A	2	3	
経営データ分析応用Ⅰ	2	3		会計・ファイナンス特論 B	2	3	隔年開講
経営データ分析応用Ⅱ	2	3		企業評価論Ⅰ	2	3	隔年開講
事業創造戦略論	2	3		企業評価論Ⅱ	2	3	隔年開講
顧客創造戦略論	2	3		実証会計論Ⅰ	2	3	隔年開講
人材育成論Ⅰ	2	3		実証会計論Ⅱ	2	3	
人材育成論Ⅱ	2	3		財務分析論Ⅰ	2	3	
人的資源管理論Ⅰ	2	3		財務分析論Ⅱ	2	3	隔年開講
人的資源管理論Ⅱ	2	3		監査論Ⅰ	2	3	隔年開講
組織心理学Ⅰ	2	3		監査論Ⅱ	2	3	隔年開講
組織心理学Ⅱ	2	3		税務会計論Ⅰ	2	3	隔年開講
マネジメントサイエンスⅠ	2	3		税務会計論Ⅱ	2	3	
マネジメントサイエンスⅡ	2	3		競争戦略論Ⅰ	2	3	
人間行動の多面的分析 A	2	3		競争戦略論Ⅱ	2	3	
人間行動の多面的分析 B	2	3		産業労働衛生論	2	3	
戦略・マネジメント特論 A	2	3		ヘルスケア経営論	2	3	
戦略・マネジメント特論 B	2	3		ベンチャー企業経営論	2	3	
コストマネジメント	2	3		現代の証券	2	3	野村證券寄附講座
財務コンサルティング論Ⅰ	2	3					

E 群（マーケティング学科専門科目）

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
統計学 A	2	1		広告コミュニケーション	2	3	
統計学 B	2	1		マーケティング・コミュニケーション	2	3	
流通情報システム論 A	2	3		サービスマーケティング	2	3	
流通情報システム論 B	2	3		ソーシャルマーケティング	2	3	
マーケティング特論 A	2	3		関係性マーケティング	2	3	
マーケティング特論 B	2	3		ブランド・マネジメント	2	3	
マーケティング特論 C	2	3		消費者行動論	2	3	
マーケティング特論 D	2	3		マーケティング・リサーチ	2	3	
マーケティング特論 E	2	3		マクロ・マーケティング A	2	3	
マーケティング特論 F	2	3		Macromarketing B	2	3	英語講義
マーケティング・ワークショップ A	2	3		流通政策 A	2	3	
マーケティング・ワークショップ B	2	3		流通政策 B	2	3	
マーケティング・ワークショップ C	2	3		映像コンテンツ企画製作演習	2	3	寄附講座
マーケティング・ワークショップ D	2	3		経営演習Ⅰ（1）	2	3のみ	詳細はP.33参照
マーケティング・ワークショップ E	2	3		経営演習Ⅰ（2）	2	3のみ	

マーケティング学科

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
経営演習Ⅱ（Ⅰ）	4	4のみ	詳細はP.33参照	経営演習Ⅱ（Ⅱ）	4	4のみ	詳細はP.33参照

F 群（経営学関連科目）

授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考	授 業 科 目	単 位	履修 年次	備 考
経済原論Ⅰ	2	2		産業組織論Ⅰ	2	3	
経済原論Ⅱ	2	2		産業組織論Ⅱ	2	3	
経済政策論Ⅰ	2	2		民法 A	2	3	
経済政策論Ⅱ	2	2		民法 B	2	3	
財政学Ⅰ	2	2		民法 C	2	3	
財政学Ⅱ	2	2		民法 D	2	3	
金融論Ⅰ	2	2		商法 A（Ⅰ）	2	3	
金融論Ⅱ	2	2		商法 A（Ⅱ）	2	3	
経済史概論Ⅰ	2	2		商法 B	2	3	
経済史概論Ⅱ	2	2		商法 C	2	3	
国際経済学Ⅰ	2	2		経済法 A	2	3	
国際経済学Ⅱ	2	2		経済法 B	2	3	
日本経済論Ⅰ	2	2		労働法 A	2	3	
日本経済論Ⅱ	2	2		労働法 B	2	3	
国際開発経済論Ⅰ	2	3		国際法 A	2	3	
国際開発経済論Ⅱ	2	3		国際法 B	2	3	
地域経済学Ⅰ	2	3		比較文化論Ⅰ	2	3	
地域経済学Ⅱ	2	3		比較文化論Ⅱ	2	3	

3. 演習科目の履修について

① 「経営基礎演習」の選考および履修について

- i 1 年次後期に募集・選考を実施します。「経営基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、研究の基本的な方法論を学んだり、「経営演習」で取り扱う内容を入門レベルで学んだりと、担当者の指導方針によって学習する領域が大きく異なります。募集に関する詳細は『AGUSEMINAR GUIDE』にて発表します。申込資格は1 年次生に限ります。
- ii 学生受入人数は、各担当者によって異なります。
- iii 選考結果により履修できないことがあります。
- iv 選考の合格者は2 年次において必ず履修しなければなりません。**
- v 選考に合格した場合は、2 年次の学年初頭に「経営基礎演習Ⅰ・Ⅱ」が事前登録されます。
- vi 「経営基礎演習」には履修順序があります。「経営基礎演習Ⅰ」の単位を修得できた者のみ、「経営基礎演習Ⅱ」の履修が認められます。
- vii 「経営基礎演習」の単位修得が「経営演習Ⅰ」の履修条件ではありません。また、「経営基礎演習」を履修したことで、当該担当者の「経営演習Ⅰ」の選考に必ず合格するということはありません。
- viii **担当者ごとに選考の基準が異なります。また、担当者によっては選考の際に所属学科の学生を優先することがあります。**

② 「経営演習Ⅰ」の選考および履修について

- i 2 年次後期に募集・選考を実施します。募集に関する詳細は『AGU SEMINAR GUIDE』にて発表します。申込資格は2 年次生に限ります。
- ii 学生受入人数については、各担当者12名程度と規定されています。
- iii 選考結果により履修できないことがあります。
- iv 選考の合格者は3 年次において必ず履修しなければなりません。
- v **選考に合格した場合は、3 年次の学年初頭に「経営演習Ⅰ(1)・(2)」が事前登録されます。**
- vi 「経営演習Ⅰ」には履修順序があります。「経営演習Ⅰ(1)」の単位を修得できた者のみ、「経営演習Ⅰ(2)」の履修が認められます。
- vii **担当者ごとに選考の基準が異なります。また、担当者によっては選考の際に所属学科の学生を優先することがあります。**

③ 「経営演習Ⅱ」の履修について

- i 「経営演習Ⅱ」は「経営演習Ⅰ(1)・(2)」の単位を修得済みの学生で、担当者の許可を得た場合に限り、履修を許可します。なお、許可された場合は、4 年次の学年初頭に「経営演習Ⅱ(1)・(2)」が事前登録されます。
- ii 「経営演習Ⅱ」には履修順序があります。「経営演習Ⅱ(1)」の単位を修得できた者のみ、「経営演習Ⅱ(2)」の履修が認められます。
- iii 履修を希望しない場合は必ず前期授業開始日までに教務課窓口で履修辞退の手続きをして下さい。なお、「経営演習Ⅱ(2)」のみの履修辞退は認められません。
- iv **履修した場合は必ず卒業論文を提出しなければなりません。**
- v 「経営演習Ⅱ(1)・(2)」は、履修することにより必修の扱いとなります。したがって、いずれか一方でも単位の修得ができない場合、他の選択科目で卒業要件を満たすことはできません。

④ 演習募集スケジュールについて

詳細は学生ポータルでお知らせします。

4. 卒業論文の提出について

提出日時、提出先、その他詳細については、学生ポータルで確認してください。

- ① 提出日時に遅れた場合は、いかなる理由があろうとも一切受け付けません。
- ② 提出後の訂正、変更はできません。
- ③ 論文に使用する表紙、そのほか詳細については、指導教員の指示にしたがって作成し、レポート用の表紙を貼付し必要事項を記入してください。
- ④ 論文の返還を希望する学生は、直接指導教員に申し出て指導教員から返還を受けてください。ただし、返還されない場合もあります。

【5】 自由選択科目

自由選択科目の履修方法

選 択（16単位）

- ① 専門科目（B～F 群）および青山スタンダード科目から、それぞれの分野における卒業に必要な単位を超えて修得した科目。
- ② 他学部専門科目（他学部科目一覧表参照）
 - 注1）他学部の専門科目を履修する場合は、当該学部で制限を設けていない科目に限ります。
 - 注2）本学部に同一名称科目がある場合は、履修できません。

他学部科目一覧表

他学部科目の履修について

- 他学部科目のうち本学部学生が履修可能な科目の一覧表を以下に掲載します。
- 履修については下記の点に注意してください。
1. 一覧表には他学部が本学部に対して履修可能としている科目を掲載しています。なお、担当者氏名および休講に関する情報は記載していませんので、講義内容および授業時間割表にて確認してください。本年度休講の科目は講義内容および授業時間割表に掲載されていません。
また、年度により一覧表の科目のうち履修を認めないなどの措置をとることがあります。
 2. 他学部の科目一覧表に入学年度の記載がある場合は、記載された入学年度の入学者のみ履修できます。掲載してある一覧表以前の入学生は、教務課で履修できるかどうかを確認してください。
 3. 修得した単位は、自由選択科目に算入されます。
 4. 一覧表に記載されている科目のうち、履修に制限がある場合は、開講学部の履修制限にしたがって履修してください。

文学部共通科目

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
芸 術 文 化 論	4	2・3・4	文 化 財 科 学	4	2・3・4	日 本 の 思 想	4	2・3・4
東 洋 の 思 想	4	2・3・4	現 代 思 想	4	2・3・4	日 本 美 術 史	4	2・3・4
東 洋 美 術 史	4	2・3・4	西 洋 美 術 史	4	2・3・4	日 本 文 化 史	4	2・3・4
東 洋 文 化 史	4	2・3・4	西 洋 文 化 史	4	2・3・4	映 像 文 化 論 A	2	2・3・4
映 像 文 化 論 B	2	2・3・4	東 洋 音 楽 史	4	2・3・4	西 洋 音 楽 史	4	2・3・4
生 命 倫 理 学	4	2・3・4	詩 論	4	2・3・4	ギリシャ・ローマ文学	4	2・3・4
テ ク ス ト 論	4	2・3・4	物 語 文 学	4	2・3・4	キ リ ス ト 教 文 学	4	2・3・4
世界各地域の文学 A	4	2・3・4	世界各地域の文学 B	4	2・3・4	世界各地域の文学 C	4	2・3・4
児 童 文 学	4	2・3・4	比 較 文 学	4	2・3・4	言 語 学 概 論	4	2・3・4
比 較 言 語 学	4	2・3・4	記 号 論	4	2・3・4	古 典 ギ リ シ ャ 語 I	4	2・3・4
古 典 ギ リ シ ャ 語 II	4	2・3・4	ラ テ ン 語 入 門	4	2・3・4	ラ テ ン 語 I	4	2・3・4
ラ テ ン 語 II	4	2・3・4	出版ジャーナリズム	4	2・3・4	放送ジャーナリズム	4	2・3・4
認 知 言 語 学	4	2・3・4	精 神 分 析 学 入 門	4	2・3・4	心 理 言 語 学	4	2・3・4
イタリアの言語と文化	4	2・3・4	通訳ワークショップ(1)	2	3・4	通訳ワークショップ(2)	2	3・4

文学部英米文学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
イ ギ リ ス 文 学 史	4	1・2	イ ギ リ ス 文 学 概 論	4	1・2	イ ギ リ ス 文 化 概 論	4	1・2
ア メ リ カ 文 学 史	4	1・2	ア メ リ カ 文 学 概 論	4	1・2	ア メ リ カ 文 化 概 論	4	1・2
グローバル文学・文化概論	4	1・2	グ ロ ー バ ル 文 学 理 論	4	1・2	英 語 学 概 論	4	1・2
英 語 史	4	1・2	英 文 法	4	1・2	コミュニケーション概論	4	1・2
異文化間コミュニケーション概論	4	1・2	英 語 教 育 学 概 論	4	1・2	イ ギ リ ス 文 学 特 講	4	3・4
イ ギ リ ス 文 化 特 講	4	3・4	ア メ リ カ 文 学 特 講	4	3・4	ア メ リ カ 文 化 特 講	4	3・4
グ ロ ー バ ル 文 学 特 講	4	3・4	グ ロ ー バ ル 文 化 特 講	4	3・4	英 語 学 特 講	4	3・4
言 語 学 特 講	4	3・4	コミュニケーション特講	4	3・4	英 語 教 育 学 特 講	4	3・4
英 詩 概 論	4	3・4	イ ギ リ ス 事 情	4	3・4	ア メ リ カ 事 情	4	3・4
英 語 聖 書	4	3・4	メディアイングリッシュⅠ	2	3・4	メディアイングリッシュⅡ	2	3・4

文学部フランス文学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
※ フ ラ ン ス 語 会 話	4	1	フ ラ ン ス 文 学 研 究	4	3・4	フ ラ ン ス 語 学 研 究	4	3・4
フ ラ ン ス 文 化 研 究	4	3・4	講 読 演 習	4	3・4	エクスプリカシオン(A)	4	3・4
エクスプリカシオン(B)	4	3・4	コ ミ ュ ニ カ シ オ ン Ⅰ	4	3・4	コ ミ ュ ニ カ シ オ ン Ⅱ	4	3・4
エクスプレシオン・エクリットⅡ	4	3・4	エクスプレシオン・エクリットⅢ	4	3・4	フ ラ ン ス 文 学 特 講	4	2・3・4
フ ラ ン ス 語 学 特 講	4	2・3・4	フ ラ ン ス 文 化 特 講	4	2・3・4	フ ラ ン ス 文 学 演 習 Ⅰ	4	2・3
フ ラ ン ス 文 学 演 習 Ⅱ	4	3・4	フ ラ ン ス 語 学 演 習 Ⅰ	4	2・3	フ ラ ン ス 語 学 演 習 Ⅱ	4	3・4
フ ラ ン ス 文 化 演 習 Ⅰ	4	2・3	フ ラ ン ス 文 化 演 習 Ⅱ	4	3・4	フ ラ ン ス 語 教 授 法 Ⅰ	4	3・4
フ ラ ン ス 語 教 授 法 Ⅱ	4	3・4	フ ラ ン ス 語 作 文	4	2・3・4	フ ラ ン ス 語 学 概 論	4	2・3・4
実 務 フ ラ ン ス 語	4	3・4						

※：既修得者用クラスのみ履修可

他学部科目一覧表

文学部日本文学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
日 本 文 学 史 (一)	2	1	日 本 文 学 史 (二)	2	1	日 本 文 学 史 (三)	2	2
日 本 文 学 史 (四)	2	2	古典文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	近代文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
漢文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日本語学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日本語史Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
表象文化研究概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日 本 学 入 門	2	1・2	文 学 交 流 入 門	2	1・2
日本文学講読Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	中国古典文学講読Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2	日本語学講読Ⅰ・Ⅱ	各2	1・2
表 象 文 化 論 Ⅰ ・ Ⅱ	各2	2～4	日本文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	日本文学特講A・B	各2	1～4
中国古典文学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	中国文学・思想特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4	日本語学特講Ⅰ・Ⅱ	各2	2～4
文 学 交 流 特 講 A ・ B	各2	2～4	日本文学研究のための英語	2	1・2	日本文学とアメリカ・ヨーロッパ	2	2～4
日 本 文 学 と ア ジ ア	2	2～4	書 理 論 Ⅰ ・ Ⅱ	各2	3・4			

文学部史学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
人 文 地 理 学 概 論	4	3・4	日 本 史 特 講	4	2・3・4	東 洋 史 特 講	4	2・3・4
西 洋 史 特 講	4	2・3・4	考 古 学 特 講	4	2・3・4	史 学 特 講 A	4	1・2・3・4
史 学 特 講 B	4	1・2・3・4	自 然 地 理 学 概 論	2	2・3・4	地 誌 学	2	2・3・4
法 律 学	2	2・3・4	政 治 学	2	2・3・4	※ 博 物 館 概 論	2	2・3のみ
※ 博 物 館 経 営 論	2	2・3のみ	※ 博 物 館 資 料 論	2	2・3のみ	※ 博 物 館 資 料 保 存 論	2	2・3・4
※ 博 物 館 展 示 論	2	2・3・4	※ 博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論	2	2・3・4	※ 博 物 館 教 育 論	2	2・3・4
※ 博 物 館 実 習 Ⅰ	2	3のみ	※ 博 物 館 実 習 Ⅱ	2	4			

※学芸員希望者のみ

文学部比較芸術学科

他学部・他学科生は3年次以上の学生が履修可

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
比 較 芸 術 学 特 講 Ⅰ	2	3・4	比 較 芸 術 学 特 講 Ⅱ	2	3・4	比 較 芸 術 学 特 講 Ⅲ	2	3・4
美 学 ・ 芸 術 思 想	4	3・4	西 洋 の 宗 教 と 芸 術	4	3・4	日 本 ・ 東 洋 の 宗 教 と 芸 術	4	3・4
伝 統 デ ザ イ ン 論	4	3・4						

教育人間科学部教育学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
日 本 教 育 史 I	2	1・2	日 本 教 育 史 II	2	1・2	西 洋 教 育 史 I	2	3・4
西 洋 教 育 史 II	2	3・4	西 洋 教 育 史 III	2	3・4	教 育 史 特 殊 講 義	2	3・4
宗 教 教 育 学	2	2	発 達 と 文 化 A	2	3・4	発 達 と 文 化 B	2	3・4
教 育 哲 学 A	2	3・4	教 育 哲 学 B	2	3・4	教 育 学 特 論	2	3・4
比 較 発 達 社 会 学	2	1・2	生 涯 発 達 心 理 学 I	2	1・2	生 涯 発 達 心 理 学 II	2	1・2
キ ャ リ ア 教 育 A	2	2	キ ャ リ ア 教 育 B	2	3・4	家 庭 教 育 A	2	2
家 庭 教 育 B	2	2	比 較 教 育 学	2	3・4	異 文 化 理 解 教 育	2	3・4
老 年 学	2	3・4	社 会 福 祉 概 論	2	2	臨 床 心 理 学 概 論 I	2	2
臨 床 心 理 学 概 論 II	2	2	小 児 精 神 神 経 学	2	3・4	相 談 心 理 学 I	2	3・4
相 談 心 理 学 II	2	3・4	特 別 支 援 教 育	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 心 理 I	2	2
障 害 児 ・ 者 の 心 理 II	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 教 育	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 福 祉	2	3・4
障 害 児 ・ 者 の 医 学	2	3・4	生 涯 学 習 概 論 I	2	2	生 涯 学 習 概 論 II	2	2
高 等 教 育 論 A	2	2	高 等 教 育 論 B	2	3・4	社 会 教 育 計 画 I	2	3・4
社 会 教 育 計 画 II	2	3・4	社 会 教 育 課 題 研 究	4	3・4	高 齢 化 社 会 と 教 育	2	3・4
青 年 期 と 教 育	2	3・4	ジ ェ ン ダ ー と 教 育	2	3・4	青 年 文 化 論	2	3・4
ボ ラ ン テ ィ ア 教 育 論	2	3・4	地 域 ネット ワ ー キ ン グ 論	2	3・4	ス ポ ー ツ ・ レ ク リ エ ー シ ョ ン 論	2	3・4
認 知 科 学 概 論	2	2	学 校 経 営 と 学 校 図 書 館	2	2	視 聴 覚 教 育 メ デ ィ ア 論	2	3・4
イ ン タ ー フ ェ ー ス 論	2	3・4	知 的 表 現 論	2	3・4	教 材 開 発 論	2	3・4
学 習 指 導 と 学 校 図 書 館	2	3・4	学 校 図 書 館 メ デ ィ ア	2	3・4	情 報 メ デ ィ ア 利 用 論	2	3・4
読 書 教 育 論	2	3・4	学 習 心 理 学 I	2	3・4	学 習 心 理 学 II	2	3・4
社 会 心 理 学 I	2	3・4	社 会 心 理 学 II	2	3・4	図 書 館 情 報 学 概 論	2	2
図 書 館 シ ス テ ム サ ー ビ ス 論	2	2	図 書 館 情 報 文 化 論	2	2	図 書 館 シ ス テ ム 経 営 論	2	3・4
情 報 メ デ ィ ア 論 A	2	2	情 報 メ デ ィ ア 論 B	2	3・4	情 報 メ デ ィ ア 論 C	2	3・4
児 童 サ ー ビ ス 論	2	3・4	メ デ ィ ア 組 織 法 I	2	3・4	メ デ ィ ア 組 織 法 II	2	3・4
メ デ ィ ア 組 織 法 III	2	3・4	情 報 サ ー ビ ス 論 I	2	3・4	情 報 サ ー ビ ス 論 II	2	3・4
情 報 サ ー ビ ス 論 III	2	3・4	情 報 技 術 論	2	2・3・4	図 書 館 情 報 学 実 習	2	4
幼 児 教 育 原 理 B	2	1・2	児 童 福 祉 論	2	1・2	臨 床 保 育 学 A	2	2
臨 床 保 育 学 B	2	2	小 児 保 健 論	2	3・4	小 児 栄 養 学	2	3・4
初 等 教 育 原 理 B	2	1・2	学 校 心 理 学	2	3・4	初 等 英 語 概 説 A	2	3・4
初 等 英 語 概 説 B	2	3・4	ラーニングデザイン基礎	2	1～4	モ バ イ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	2	1～4
イ ン タ ー ネ ッ ト と 法 的 課 題	2	1～4	コ ン テ ン ツ デ ザ イ ン と 効 果 解 析 実 践	2	3・4	ソ ー シ ャ ル メ デ ィ ア テ ク ノ ロ ジ ー	2	3・4
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン プ ラ ン ニ ン グ と 学 習 支 援 実 践	2	3・4	ソ ー シ ャ ル メ デ ィ ア デ ザ イ ン 実 践	2	3・4	キ ャ リ ア 発 達 と 組 織 学 習	2	3・4
キ リ ス ト 教 学 校 論	2	3・4	聖 書 の 世 界 (旧 約)	2	3・4	聖 書 の 世 界 (新 約)	2	3・4
キ リ ス ト 教 の 教 理	2	3・4	キ リ ス ト 教 と 法 思 想	2	3・4	宗 教 と 社 会	2	3・4
礼 拝 学	2	3・4	キ リ ス ト 教 メ ン タ ル ヘ ル ス	2	3・4			

他学部科目一覧表

教育人間科学部心理学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
心 理 統 計 実 習	2	3・4	哲 学 的 認 識 論	4	3・4	心 の 哲 学	4	3・4
心 理 学 史	2	3・4	学 習 心 理 学	4	3・4	発 達 心 理 学	4	1・2
生 涯 発 達 心 理 学 I	2	2	生 涯 発 達 心 理 学 II	2	2	生 涯 発 達 論	2	3・4
知 覚 心 理 学	2	2	認 知 心 理 学	4	3・4	音 楽 心 理 学	2	3・4
感 情 心 理 学	2	3・4	神 経 心 理 学	2	3・4	人 格 心 理 学	4	3・4
犯 罪 心 理 学	4	3・4	社 会 心 理 学	4	3・4	社 会 心 理 学 I	2	3・4
社 会 心 理 学 II	2	3・4	産 業 心 理 学	2	3・4	広 告 心 理 学	2	3・4
ノンバーバル・コミュニケーション I	2	3・4	ノンバーバル・コミュニケーション II	2	3・4	応用社会心理学特講 I	2	3・4
応用社会心理学特講 II	2	3・4	応用社会心理学特講 III	2	3・4	応用社会心理学特講 IV	2	3・4
応用社会心理学特講 V	2	3・4	応用社会心理学特講 VI	2	3・4	心 理 学 特 講 A	2	3・4
学 校 心 理 学	2	3・4	臨 床 心 理 学	4	2	臨 床 心 理 学 I	2	3・4
臨 床 心 理 学 II	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 心 理 I	2	2	臨 床 心 理 学 特 講	4	3・4
精 神 分 析 学	2	3・4	精 神 医 学	4	3・4	音 楽 療 法	2	3・4
相 談 心 理 学	4	3・4	家 族 心 理 学	2	3・4	健 康 心 理 学	2	3・4
コ ミ ュ ニ テ ィ 心 理 学	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 心 理 II	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 教 育	2	3・4
障 害 児 ・ 者 の 福 祉	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 医 学	2	3・4	心 理 面 接 法	4	3・4
応 用 行 動 分 析	2	3・4	身 体 医 学	2	3・4	心 身 医 学	2	3・4
薬 理 学	2	3・4	脳 生 理 学	2	3・4	精 神 衛 生	2	3・4
母 子 保 健	2	3・4	成 人 ・ 高 齢 者 保 健	2	3・4	精 神 保 健 福 祉	2	3・4
保健・医療・福祉・制度論	2	3・4	社会保障制度と関連法規	2	3・4	心 理 学 原 書 講 読 A	2	3・4
心 理 学 原 書 講 読 B	2	3・4						

経済学部

経済学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
経 済 数 学 入 門 I	2	1	経 済 数 学 入 門 II	2	1	経 済 学 史 I	2	2
経 済 学 史 II	2	2	応 用 ミ ク ロ 経 済 学 I	2	3	応 用 ミ ク ロ 経 済 学 II	2	3
経 済 動 学 I	2	2	経 済 動 学 II	2	2	オ ー プ ン マ ク ロ 経 済 学 I	2	3
オ ー プ ン マ ク ロ 経 済 学 II	2	3	計 量 経 済 学 I	2	2	計 量 経 済 学 II	2	2
経 済 統 計 I	2	3	経 済 統 計 II	2	3	数 理 統 計 I	2	2
数 理 統 計 II	2	2	経 済 数 学 I	2	2	経 済 数 学 II	2	2
社 会 政 策 論 I	2	3	社 会 政 策 論 II	2	3	公 共 経 済 学 I	2	3
公 共 経 済 学 II	2	3	社 会 保 障 論 I	2	3	社 会 保 障 論 II	2	3
産 業 論 (航 空 事 業 I)	2	3	産 業 論 (航 空 事 業 II)	2	3	産 業 論 (損 害 保 険 業)	2	3
産 業 論 (税 法)	2	3	産 業 論 (証 券 ビ ジ ネ ス)	2	3	産 業 論 (知 的 エ ン タ テ イ メ ン ト 産 業 I)	2	3
産 業 論 (知 的 エ ン タ テ イ メ ン ト 産 業 II)	2	3	労 働 経 済 論 I	2	3	労 働 経 済 論 II	2	3
国 際 金 融 論 I	2	3	国 際 金 融 論 II	2	3	日 本 経 済 史 I	2	2
日 本 経 済 史 II	2	2	欧 米 経 済 史 I	2	2	欧 米 経 済 史 II	2	2
東 洋 経 済 史 I	2	2	東 洋 経 済 史 II	2	2	経 済 思 想 史 I	2	3
経 済 思 想 史 II	2	3	キ リ ス ト 教 社 会 思 想 史 I	2	2	キ リ ス ト 教 社 会 思 想 史 II	2	2
世 界 経 済 論 I	2	3	世 界 経 済 論 II	2	3	各 国 経 済 論 A I	2	2
各 国 経 済 論 A II	2	2	各 国 経 済 論 B I	2	2	各 国 経 済 論 B II	2	2
農 業 経 済 論 I	2	3	農 業 経 済 論 II	2	3	環 境 経 済 学 I	2	3
環 境 経 済 学 II	2	3	憲 法 A	2	2	憲 法 B	2	2
応 用 ゲ ー ム 理 論	2	3	財 政 学 基 礎	2	2	行 動 経 済 学	2	2
応 用 マ ク ロ 経 済 学	2	3						

他学部科目一覧表

現代経済デザイン学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
公 的 規 制 の 経 済 学	2	3	N P O 論 A	2	3	契 約 の 経 済 学	2	3
公 共 政 策 の 経 済 学	2	3	公 共 選 択 論	2	3	N P O 論 B	2	3
政 策 と 評 価 A	2	3	法 と 経 済 学	2	3	都 市 再 生 論	2	3
まちづくりと都市計画	2	3	住 宅 と 不 動 産 の 経 済 学	2	3	郊 外 地 域 論	2	3
地 域 人 口 論	2	3	地 方 財 政 の 経 済 学 I	2	3	地 方 財 政 の 経 済 学 II	2	3
開 発 経 済 学	2	3	政 策 と 評 価 B	2	3	経 済 地 理	2	2
経 済 地 誌	2	2						

法学部

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
裁 判 論	2	1・2	国 際 社 会 と 法	2	1・2	イ ン タ ー ネ ッ ト 法	2	1・2
法 思 想 史 A	2	1・2	法 思 想 史 B	2	1・2	近 代 日 本 法 史	2	1・2
近 代 西 洋 法 史	2	1・2	法 史 学 A	2	2	法 史 学 B	2	2
法 哲 学 A	2	2	法 哲 学 B	2	2	法 社 会 学 A	2	2
法 社 会 学 B	2	2	基 礎 法 特 論 A	2	3・4	基 礎 法 特 論 B	2	3・4
外 国 法 入 門 A	2	1・2	外 国 法 入 門 B	2	1・2	ア メ リ カ 法 A	2	2
ア メ リ カ 法 B	2	2	ア メ リ カ 法 C	2	2	ア メ リ カ 法 D	2	2
ア メ リ カ 法 E	2	2	イ ギ リ ス 法 A	2	2	イ ギ リ ス 法 B	2	2
フ ラ ン ス 法 A	2	2	フ ラ ン ス 法 B	2	2	ド イ ツ 法 A	2	2
ド イ ツ 法 B	2	2	中 国 法 A	2	2	中 国 法 B	2	2
E U 法	2	3・4	フ ラ ン ス 法 ・ 政 治 文 献 講 読	2	3・4	ド イ ツ 法 ・ 政 治 文 献 講 読	2	3・4
中 国 法 ・ 政 治 文 献 講 読	2	3・4	憲 法 A	2	1	憲 法 B	2	1
憲 法 C	2	2	憲 法 D	2	2	行 政 法 A	4	2
行 政 法 B	4	2	行 政 法 C	2	3・4	刑 法 A	2	2
刑 法 B	2	2	刑 法 C	2	3・4	刑 法 D	2	3・4
国 際 法 C	2	3・4	国 際 法 D	2	3・4	刑 事 訴 訟 法 A	2	3・4
刑 事 訴 訟 法 B	2	3・4	刑 事 政 策 A	2	3・4	刑 事 政 策 B	2	3・4
刑 事 法 特 論 B	2	3・4	教 育 法	2	3・4	民 法 C	4	2
民 法 D	4	3・4	民 法 E	4	3・4	商 法 C	4	3・4
商 法 D	4	3・4	商 法 E	4	3・4	民 事 訴 訟 法 A	4	3・4
民 事 訴 訟 法 B	4	3・4	国 際 民 事 訴 訟 法	2	3・4	国 際 私 法 A	2	3・4
国 際 私 法 B	2	3・4	破 産 法 A	2	3・4	破 産 法 B	2	3・4
知 的 財 産 法 A	2	3・4	知 的 財 産 法 B	2	3・4	知 的 財 産 法 C	2	3・4
知 的 財 産 法 D	2	3・4	民 事 法 特 論 A	2	3・4	民 事 法 特 論 B	2	3・4
民 事 法 特 論 C	2	3・4	税 法 A	2	2	税 法 B	2	3・4
税 法 C	2	3・4	国 際 労 働 法	2	3・4	社 会 保 障 法 A	2	3・4
社 会 保 障 法 B	2	3・4	政 治 学 原 論 A	2	1・2	政 治 学 原 論 B	2	1・2
日 本 政 治 史 A	2	1・2	日 本 政 治 史 B	2	1・2	政 治 思 想 史 A	2	2
政 治 思 想 史 B	2	2	比 較 政 治 学	4	2	国 際 関 係 論	4	2
政 治 学 特 論 A	2	2	政 治 学 特 論 B	2	2	N P O 論	2	3・4
ビ ジ ネ ス 法 入 門	2	1・2	消 費 者 法	4	2	銀 行 取 引 法	2	2
金 融 商 品 取 引 法	2	3・4	国 際 取 引 法 A	2	3・4	国 際 取 引 法 B	2	3・4
商 事 法 特 論 A	2	2	商 事 法 特 論 C	2	3・4	国 際 金 融 法	2	3・4
ファイナンスとデリバティブ	2	3・4	公 共 政 策 と 法	2	1・2	立 法 学	2	2
行 政 学 A	2	2	行 政 学 B	2	2	公 共 政 策 特 論 A	2	2
公 共 政 策 特 論 B	2	2	地 方 自 治 法	2	3・4	都 市 法	2	3・4
政 治 過 程 論 A	2	3・4	政 治 過 程 論 B	2	3・4	現 代 法 実 務 論	2	2
ヒューマン・ライツの現場	2	1・2	環 境 法 A	2	2	環 境 法 B	2	2
人 権 法 特 論 A	2	2	人 権 法 特 論 B	2	2	人 権 法 特 論 C	2	3・4
言 論 法 A	2	3・4	言 論 法 B	2	3・4	国 際 人 権 法	2	3・4

国際政治経済学部

国際政治経済学部は、学科科目 B 群科目の履修を他学部の学生に認めています。ただし、以下の一覧に掲載する科目については、履修を認めていません。

【国際政治経済学部生以外の学部生に履修を許可しない科目の一覧】

授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目
国際政治学特殊講義Ⅲ	国際経済学特殊講義Ⅲ	外国書（フランス語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ドイツ語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（スペイン語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（中国語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ロシア語）講読Ⅰ・Ⅱ	インターンシップ	演習ⅠＡ・ⅠＢ・Ⅱ
通訳の理論と実践Ⅰ・Ⅱ	翻訳の理論と実践Ⅰ・Ⅱ	国際ビジネス・コミュニケーション（Ⅰ）・（Ⅱ）
アンケート・社会調査の方法	言語の普遍性	情報と組織の経済学Ⅰ
日本経済と証券ビジネス	民法概論Ⅰ・Ⅱ	国際私法Ⅰ・Ⅱ
財政論Ⅰ・Ⅱ	簿記論ⅠＡ・ⅠＢ	簿記論ⅡＡ・ⅡＢ
広告コミュニケーション論	国際取引法	インターネットと法*
紛争解決と法	インターカルチュラル・コミュニケーション	国際コミュニケーション特殊講義（海外研修）
異文化コミュニケーション特殊講義Ⅰ・Ⅱ	国連研究Ⅱ	コミュニケーション研究法の全体像
イギリス文化論	文化とコミュニケーションⅠ・Ⅱ	経営情報Ⅰ・Ⅱ
パブリック・リレーションズ		
その他、所属学部・学科に同一名称・異名称同一科目がある国際政治経済学部の科目		

他学部科目一覧表

総合文化政策学部

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
経 済 分 析 (1 ミ ク ロ)	2	3・4	経 済 分 析 (2 マ ク ロ)	2	3・4	行 政 学 概 論	2	3・4
国 際 関 係	2	3・4	公 共 政 策 論	2	3・4	行 政 法 概 論	2	3・4
著 作 権 法	2	3・4	国 際 政 治 学 概 論	2	3・4	公 共 経 済 学 概 論	2	3・4
社 会 調 査 論 I	2	3・4	社 会 調 査 論 II	2	3・4	統 計 学	2	3・4
社 会 調 査 法 I	2	3・4	社 会 調 査 法 II	2	3・4	社 会 統 計 学	2	3・4
社 会 調 査 実 習	4	3・4	文 化 行 政 法	2	3・4	文 化 産 業 概 論	2	3・4
観 光 産 業 論	2	3・4	社 会 福 祉 論	2	3・4	非 営 利 会 計 論	2	3・4
プロジェクトファイナンス	2	3・4	公 共 経 営 論	2	3・4	文 化 人 類 学 概 論	2	3・4
論 理 学	2	3・4	メ デ ィ ア リ テ ラ シ ー	2	3・4	文 化 遺 産 論	2	3・4
倫 理 学 入 門	2	3・4						

理工学部

授 業 科 目	単位	配置年次	授 業 科 目	単位	配置年次	授 業 科 目	単位	配置年次
現 代 物 理 学 概 論	2	2・3・4	現 代 化 学 概 論	2	2・3・4	一 般 電 気 工 学	2	2・3・4
一 般 機 械 工 学	2	2・3・4	社会と経営システム工学	2	2・3・4	計 算 機 概 論	2	2・3・4

社会情報学部

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
情 報 化 社 会 と 法	2	2・3・4	デ リ バ テ ィ ブ ズ	2	2・3・4	経 済 解 析	2	2・3・4
情 報 倫 理	2	2・3・4	情 報 シ ス テ ム 演 習	2	3・4			

V. 授業について

1. 授 業

授業時間

授業時間は次のとおりです。

第 1 時限	9 : 00～10 : 30
礼 拝	10 : 30～11 : 00
第 2 時限	11 : 00～12 : 30
昼休み	12 : 30～13 : 20
第 3 時限	13 : 20～14 : 50
第 4 時限	15 : 05～16 : 35
第 5 時限	16 : 50～18 : 20
第 6 時限	18 : 30～20 : 00
第 7 時限	20 : 10～21 : 40

授業は原則 5 時限で実施します。しかし、科目配置の都合により 6 時限目以降にも配置することがあります。

また、特別な行事のときに授業時間が変更となることがあります。その場合は「学生ポータル」で伝達します。

授業教室

授業教室については、別冊子『授業時間割表』に掲載されています。授業教室が変更になる場合は、随時「学生ポータル」で伝達しますので、毎日必ず確認してください。建物の配置については『授業時間割表』巻末に掲載されている「校舎配置図」を参照してください。

休 講

授業が休講になる場合は、「学生ポータル」で伝達します。

休講情報がなく、授業開始から30分以上経過しても担当教員が来ず、連絡もない場合は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に問い合わせ、指示を受けてください（学生共通細則第 7 条参照）。

補 講

休講となった授業に対し、補講を行う場合があります。補講日は、前期・後期とも、定期試験開始前にそれぞれ数日間設けられています。日程については、学事暦を参照してください。詳細は「学生ポータル」で伝達しますので、必ず確認してください。また、補講期間以外にも補講を行う場合もあります。担当者が直接教室で発表するか、または「学生ポータル」で発表しますので、随時確認してください。

授業の欠席について

本学では、特定の理由による欠席を認める「公欠制度」は設けておりません。ケガ・病気・忌引きなどで授業を欠席した場合は、次回の授業時に直接担当教員に申し出て、指示を受けてください。なお、長期にわたる欠席の場合は、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に相談してください。

2. 大学からの伝達

本学では、大学から学生のみなさんへの通知や連絡は、主に「学生ポータル」と「掲示板」によって行います。

「学生ポータル」を学内で利用する場合は学生証が必要ですので、必ず携帯してください。また、利用方法については、冊子『学生ポータル利用案内』を参照してください。

3. 緊急時の
「授業の取り扱い」
および「伝達手段」
について

「掲示板」の設置場所については次のとおりです。

青山キャンパス	8号館と9号館の間（1階）
相模原キャンパス	E棟とF棟の間（外階段下通路内）

「学生ポータル」「掲示板」では、授業・試験など学生生活に直接関係のある事項が随時伝達されています。情報を確認しなかったことにより、後になって不利益を被ることのないよう、十分注意してください。また、電話による問い合わせには一切応じられませんので、質問などがある場合は直接窓口に来室してください。

事故、災害などにより通常利用している交通機関の運行が停止した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

下記いずれの場合も大学からの情報伝達手段で確認してください。

1. 通常利用している交通機関運休時における対応

- (1) 代替交通機関を利用して登校が可能と判断できた場合には、危険な状況でない限り、極力、登校するよう努めてください。
- (2) 代替交通機関の利用ができず登校できなかった場合には、所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）に用意されている「交通機関不通による授業欠席届」に、交通機関などが発行した遅延証明書、事故証明書などを添えて授業担当者に提出して欠席分の学習補填の指示を受けてください。

上記1.で休講などの情報

携帯電話 <http://mobile.jm.aoyama.ac.jp>

2. 台風の接近時などの対応

台風の接近などによる被害が予想される場合には、休講などの特別措置がとられることがあります。

3. 大規模地震の発生が予想されるときへの対応

- (1) 大規模地震対策特別措置法による「地震防災対策強化地域判定会」の招集が報道された時点で休校措置がとられます。
- (2) 警戒宣言が解除され、または「判定会」が解散されたときは、休校を解き、平常授業に戻ります。

上記2.3.

テレドーム 0180-993171（青山学院大学用番号）

Web <http://www.aoyama.ac.jp>

（緊急の情報がない場合、テレドームは呼び出し音のみになります）

ただしこのサービスについては、利用可能な電話と、利用できない電話があります。

利用可能な電話

- ① 一般電話
- ② 携帯電話…NTT docomo、au、SoftBank

利用できない電話

携帯電話…NTT docomo を除くプリペイド式携帯、PHS、
列車公衆電話、「050」から始まるIP電話、NTTの「ひかり電話」、
一部のケーブルテレビ電話、海外からの国際電話

緊急時には、原則として「学生ポータル」では情報提供されません。

4. 新型インフルエンザに対する本学の対応について

2009年に全国的に流行した新型インフルエンザは弱毒性の「H1N1」型でしたが、いまだ強毒性インフルエンザ「H5N1」型の流行が危惧されております。

本学では新型インフルエンザの流行が確認された場合は学院危機管理委員会のもとに「新型インフルエンザ対策本部」および「新型インフルエンザ対策会議」において検討を行い、休校等の処置を行う場合（休校の解除を含む）は学生・生徒・児童・園児、教職員および保護者等に対して学院ホームページや学内一斉配信メール(学生ポータル等)、緊急連絡網、文書等でお知らせいたします。

なお、新型インフルエンザ（「H5N1」型）に対する本学の対応は「国内で1人でも発生が認められた場合は幼稚園から大学までを完全休校」とします。

日本国内で罹患者が認められ、厚生労働大臣よりフェーズ4B（ヒト-ヒト感染発生）の宣言が行われた時点で登校を控えてください。

新型インフルエンザの休校情報は発生次第、テレドームで確認できます。

◇テレドーム 0180-993171

Ⅶ．試験・レポートについて

授業科目の履修状況を評価し単位を認定するため、試験が行われます。試験は、筆記のほかに、科目によっては、論文、レポート、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法で行われることもあります。

試験は、受験資格のある学生のみ受験できます。

受験資格は、以下のとおりです。

- ① 受験する授業科目を履修登録していること
- ② 学費を納入済みであること

なお、学期を通じ欠席の多い学生は、その科目の受験資格を失うことがあります（学生共通細則第7条参照）。

1．試験の種別

定期試験

前期末、後期末に期間を定めて実施する試験を定期試験といいます。

試験時間割は、試験開始日の約2週間前に「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。試験実施教室や時間割は通常授業時と異なります。

平常試験

定期試験期間以外の、平常の授業時間に行う試験を平常試験といいます。この場合、担当者によって実施日その他詳細が決定されます。情報は担当者より発表されるか、場合によって「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

レポート

レポートは、提出先によって2種類あります。

【教務窓口提出レポート】

おおむね定期試験の前後に受付が行われます。詳細は「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

テーマ、枚数、提出期限などを確認し、必ず指定された期間（時間）内に提出してください。指定された期間内であれば、当該授業科目開講キャンパスに限らず、どちらのキャンパスでも受け付けます。

提出後の内容変更および指定された期間以外の提出は認めません。

このレポートを提出するときは、以下の点に注意してください。

- ① 用紙は指定されたものを使用してください。
- ② 必ず大学所定のレポート提出票を貼付してください。
- ③ レポート提出票には、整理番号その他、記入事項のすべてを「学生ポータル」で確認の上、ボールペンで記入してください。鉛筆書きは受け付けません。
- ④ 窓口に持参する際は、提出票記入・ホチキス留めなどをすべて完了し、作成が完了した状態にしておいてください。窓口での提出票記入・ホチキス留めはできません。
- ⑤ 提出した際に受領印の押印された「レポート提出票（学生控）」を受け取り、成績が発表されるまで各自保管しておいてください。後日、提示を求められる場合があります。

【担当者提出レポート】

情報は担当者より発表されるか、場合によって「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。テーマ、用紙、枚数、提出期限、提出方法など、すべて担当者の指示に従ってください。

提出先として学務課あるいは学務部教務課設置の提出ボックスを指定される場合がありますが、このレポートは担当者提出レポートとして扱います。

追試験

定期試験に限り、病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生に対して行われる試験を追試験といいます。受験資格は厳密に定められており、自己の不注意によって受験できなかった場合、および、公的な証明書のない場合は、追試験を受けることはできません。

資格および申請方法などについては後述の「**3. 追試験**」を参照してください。なお、出席日数不足など、担当者の判断によって追試験の受験が認められない場合があります。

定期試験期間中は、試験の有無にかかわらず、定期試験期間最終日まで予定（旅行など）を入れないでください。

また、やむを得ず追試験の申請をすることも想定し、追試験実施日（学生ポータルで発表）にも留意してください。

2. 定期試験の受験
定期試験時間

定期試験時間割は以下のとおりです。授業時間割とは異なるので注意してください。
定期試験科目配置上、5時限で実施できないことが起きた場合のみ6・7時限目にも配置します。
試験時間は原則として60分です（理工学部・社会情報学部専門科目のみ最長85分の場合があります）。

第1時限	9：30 ～ 10：30
第2時限	11：10 ～ 12：10
第3時限	13：10 ～ 14：10
第4時限	14：50 ～ 15：50
第5時限	16：30 ～ 17：30
第6時限	18：20 ～ 19：20
第7時限	19：40 ～ 20：40

受験上の注意

受験上の注意は以下の通りです。あらかじめよく読んでおいてください。
試験教室で配布される受験票は、試験を受けた証拠になりますので学年・クラス番号等、正確に記入してください。答案用紙の学年・クラス番号を正しく記入しない場合、担当教員の成績報告に支障をきたすことがあります。また指定されたクラス・試験教室で必ず受験してください。

受験上の注意

1. 監督者の指示に従うこと。
2. 机の空いている限り、一机一名で着席すること。
3. 机上等に書き込みがある場合は、開始前に申し出ること。
4. 学生証はケースから出し、通路側の机上に置くこと。※注
5. 以下の行為は、不正行為に該当するので充分留意すること。
 - ① 受験資格のない者の受験（代人も含む）。
 - ② 答案の交換及び他人の答案を盗み見ること。
 - ③ カンニングペーパー（縮小コピー）等の準備および使用。
 - ④ 答案用紙を提出せずに試験場から退室すること。
 - ⑤ 机の中にノート、コピー、文献等を開いたまま置くこと。

不正行為

- ⑥ 所持品やかばん、透明ファイルケース等の中身が見える形のまま、身の回りに置くこと。
- 6. 机上には、許可された文献類および筆記用具以外は置かないこと。
なお、筆箱・ペンケース等も置いてはならない。
- 7. 携帯電話等の電子機器類の電源を切り、かばん等に入れておくこと。
(携帯電話は時計として使用できない)
- 8. 試験終了前に退室する場合は、他の受験者の妨げにならないよう留意すること。
- 9. 不正行為は恥ずべき行為であり大学として厳重に対処する。

※注 学生証を提示しない学生は受験できません。

- ・試験当日学生証を忘れた場合、相模原キャンパスでは学務課、青山キャンパスでは学務部教務課で学生カードを受け取り受験してください。学生カードの使用については以下の点に注意してください。
 - a. 学生カードは、試験受験以外には一切利用できません。
 - b. 学生カードは発行日に限り記載者本人のみ有効です。使用後は自己の責任において適切に処分してください。
- ・試験開始後20分以上の遅刻者は受験できません。また試験開始後30分を経過するまで退室できません。

不正行為を行った学生は、以下に示す『試験における不正行為者処分規則』が適用され、単位を修得することができません。科目によっては4年間で卒業することが不可能になります。

青山学院規則集『試験における不正行為者処分規則』より抜粋

第3条 不正行為者の処分内容は、学則に基づく懲戒処分（訓告、停学、退学）とするほか不正行為を行った授業科目、当該授業科目を含む数科目または全授業科目の履修届を無効とする。

第4条 不正行為者の氏名および処分は学内に掲示し、本人および保証人へ通知する。

不正行為とは、『試験における不正行為者処分規則施行細則』第2条に定められた、以下の行為をいいます。

- ① 代人として受験することまたは代人に受験させること。
- ② 答案を交換すること。
- ③ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）の用意またはそれらを使用すること。
- ④ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）を廻し見すること。
- ⑤ 使用が許可されていない文献等を使用すること。
- ⑥ 使用が許可されている文献等を貸借すること。
- ⑦ 所持品、身体、机、壁等に解答およびそれに類するものを書き込むこと。
- ⑧ 答案を写させること、または写しとること。
- ⑨ 他人の答案を盗み見ること。
- ⑩ 声、動作等で解答を伝達すること、または伝達を受けること。
- ⑪ 受験資格のない者が受験すること。
- ⑫ 他人の学生証を使用して受験すること。
- ⑬ 偽名または故意により無記名答案を提出すること。
- ⑭ 答案を提出しないこと。
- ⑮ 監督者の指示や注意に従わないこと。
- ⑯ その他上記各号に類すると認められる行為。

3. 追試験

申請資格

定期試験を病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生のみ申請することができます。

以下の場合には追試験の対象とはなりません。

- ① 自己の不注意（時間割の見間違い・変更情報の見落としなど）によって受験できなかった場合
- ② 公共交通機関以外を利用した場合の、天候や交通事故などによる道路の渋滞、車両の故障を理由とする遅刻・欠席の場合
- ③ 平常試験（定期試験以外の試験を指す）の場合
- ④ 定期試験を受験した場合

申請方法

申請の日程、追試験日程については、定期試験前に「学生ポータル」で発表します。

追試験の受験を希望する学生は、**直接、授業科目の開講キャンパスの教務窓口**（巻末参照）で、定められた期間に申請してください。当該授業科目開講キャンパス以外の教務窓口では申請できません。

申請時には、当該試験の受験が不可能であったことを証明する公的な書類を持参してください。公的な書類は、**学生氏名、定期試験を受験できなかった日時、理由、証明者名の記載および証明者印のあるもの**に限ります。コピーは不可です。「追試験願」用紙を交付しますので、その場で記入し、持参した書類とともに提出してください。なお、受験料は無料です。

欠席理由と、それを示す証明書は次のとおりです。

理 由	証 明 書
病気	医師の診断書（通院・入院・安静期間などの記載のあるもの）
忌引（両親、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子供） ※法事は忌引に含めない	死亡に関する公的証明書および保証人などによる続柄の証明（要押印） または、 葬儀に参列したことを示す会葬礼状（日付が明記されているもの） および保証人などによる続柄・参列の証明（要押印）
就職試験	就職試験の受験を証明するもの（受験票では不可）
災害（台風、地震、水害、火災など）	官公庁による被災証明書
交通関係（遅延）	交通機関などの証明書（通学路線に限る。遅延当日必ず教務窓口で指示を受けること）
教育実習	教育実習参加証明書（教職課程課・学務課にて発行）
科目の時限重複	定期試験実施前に教務窓口で指示を受けること

上記以外の理由または、公的な証明書が無い場合については、事前に「**追試験受験資格審査**」を受けてください。審査で認められた場合のみ申請することができます。

追試験時間・採点

原則として60分で実施し、答案は100点満点で採点されます。

Ⅶ．成績評価について

成績評価

学業成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、レポート、論文、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法）によって評価されます。

本学の成績は100点法によって評価されます。60点以上が合格とされ、所定の単位が与えられます。

成績証明書および成績通知書には AA、A、B、C の表記が用いられます。ただし、「情報スキル I」および指定の海外研修については、所定の単位が与えられた場合、成績証明書には「RR」、成績通知書には「合格」と表示されます。

実点数範囲	学生への成績通知	成績証明書の記載
100～90	AA	AA
89～80	A	A
79～70	B	B
69～60	C	C
59以下または不合格	XX	表示せず
欠席	X	表示せず
「情報スキル I」、海外研修等による単位修得	合格	RR

G.P.A.

2009年度以降のカリキュラム適用学生については、成績通知書に「G.P.A.」の数値を表示しています。G.P.A. (Grade Point Average) とは、学生の履修登録科目の 1 単位あたりの評点平均値を指します。これは、欧米で広く用いられている世界標準的な成績評価方法で、本学では給付奨学金や学業奨励賞の候補者選出、学位授与式の総代選出、本学大学院進学などの際に活用されています。

履修した科目には、A、B、C、XX などの成績が与えられます。これらの評価を数値化して 1 単位ごとの平均を算出したものが G.P.A. です。

本学では、各評価に与えられる評点は次のとおりです。

本学評価	評点
AA	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
XX(不合格)	0.0
X（欠席）	0.0

上記の評点を次の計算式に当てはめて G.P.A. を算出します。

$$G.P.A. = \frac{(AA \text{ の単位数} \times 4 + A \text{ の単位数} \times 3 + B \text{ の単位数} \times 2 + C \text{ の単位数} \times 1)}{(AA \text{ の単位数} + A \text{ の単位数} + B \text{ の単位数} + C \text{ の単位数} + XX \text{ の単位数} + X \text{ の単位数})}$$

※理工・社会情報学部は、教職課程科目を G.P.A. 算出の対象外とします。

※「情報スキル I」、「海外語学・文化研修 I / II / III」、「海外語学・キリスト教文化研修」は、G.P.A. 算出の対象外とします。

成績通知

学生の成績評価は、3 月上旬および 9 月中旬に学生ポータルメニュー「成績通知書」にてお知らせします。学外 PC から閲覧する場合は、あらかじめ学内で Secure Matrix パスワードの登録を済ませておく必要があります。（詳細は、学生ポータルメニュー「学外から成績通知書を閲覧する手順」を参照してください。）成績通知書は各自で印刷し、修得した科目とその評価を確認してください。

成績調査

成績評価に疑問がある場合は、「成績調査」を申請することができます。これは、科目担当者に対して、安易に再考・変更を求めるものではありません。成績に疑問を持つ**明確な根拠がある場合にのみ**申請してください。

大学が指定する調査期間中に、成績通知書持参のうえ所属キャンパスの教務窓口（巻末参照）へ申し出てください。調査期間は、「学生ポータル」でお知らせします。

電話での問い合わせ、期間外の申し出には一切応じません。

VII. 進級および卒業について

進 級	進級については、所属する学部で条件が異なるので、「IV. 学部履修要項」の各学部、学科の進級条件の項を参照してください。進級するには、1年間をとおして在学することが必要です。 休学をして復学した場合は、休学前と同一学年になります。
卒 業	(1) 本学に4年以上在学し(休学期間を除く)、各学部で定められた、卒業に必要な単位を修得した者は、卒業が認められ学士の学位が授与されます。 (2) 卒業発表は3月上旬に行います。卒業の可否は必ず本人が確認してください。電話による問い合わせには一切応じておりません。
9 月卒業	4年生で留年した場合、不足する科目や単位数により、次年度の前期で単位を修得し、卒業要件単位を満たすことができれば、願い出によって9月に卒業できる制度があります。 (1) 希望者は、所属キャンパスの教務窓口(巻末参照)で相談し、「9月卒業希望届」を定められた期間に提出してください。 (2) 期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。 (3) 学費については、本学の財務部資金課に問い合わせてください。
卒業延期制度	4年次に在学する学生が卒業要件を満たし、具体的な勉学継続計画、国家試験受験等明確な理由、目的を有したうえで、在学期間を延長して学修継続を希望する場合、卒業の延期を認めて学修継続の機会を与える制度です。 (1) 希望者は、所属キャンパスの教務窓口(巻末参照)で相談し、「卒業延期許可願」、「学修計画書」、「誓約書・保証書」を定められた期間に提出してください。 (2) 期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。 (3) 学費については、本学の財務部資金課に問い合わせてください。

Ⅸ．学籍について

		内 容	取扱・問い合わせ窓口											
修業年限		本学の教育課程を修了するために必要な最低修業年限は、4年です。	学則第35条参照											
在学年限		① 本学に在学できる期間は、休学期間を除き8年です。 ② 2年次編入学生、2年次転学部・転学科生の在学年限は6年です。 ③ 3年次編入学生、3年次転学部・転学科生の在学年限は4年です。 ④ 再入学者の在学年限は、退学以前を加えて8年です。 ⑤ 編入学または転学部・転学科をした再入学者の在学年限は、退学以前を加え、編入学または転学部・転学科学生の在学年限を越えることはできません。	学則第36条参照											
休学	休学期間	① 休学期間は、通年(1年間)、前期、後期の3種類があり、1年または1学期ごとに更新しなければなりません。 ② 休学期間は連続2年までとしますが、特にやむを得ない場合は、審議をしたうえで、連続して3年まで認めることがあります。 ③ 休学期間は通算して3年を超えることはできません。 ④ 休学期間は在学期間に算入しません。	学則第29・36条参照											
	休学をするには	病気その他やむを得ない理由で休学しようとする学生は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「休学願」(大学所定用紙)(保証人連署)の提出 ② 学生証の提示 ③ 休学費の納入 ④ 「理由書(書式は任意)」休学期間が通算であっても連続であっても、2年を超えてさらに休学を願い出る場合のみ提出 ※休学は原級(元の学年)にとどめるので、通年または半期休学をした場合、進級することができません。進級するには、4月から翌年3月まで1年間とおして在学することが必要です。ご注意ください。	(手続き) ⇒所属キャンパスの教務窓口(巻末参照) 学則第28条参照 (休学費) ⇒財務部資金課(青山キャンパス) 学則 別記学費納付に関する取扱い8参照											
	休学願の提出期限	「休学願」の提出期限は次のとおりです。 <table><tr><td></td><td>休学期間</td><td>提出期限</td></tr><tr><td>通年休学</td><td>4月1日～翌年3月31日</td><td>6月末日</td></tr><tr><td>前期休学</td><td>4月1日～9月30日</td><td>6月末日</td></tr><tr><td>後期休学</td><td>10月1日～翌年3月31日</td><td>12月末日</td></tr></table>		休学期間	提出期限	通年休学	4月1日～翌年3月31日	6月末日	前期休学	4月1日～9月30日	6月末日	後期休学	10月1日～翌年3月31日	12月末日
	休学期間	提出期限												
通年休学	4月1日～翌年3月31日	6月末日												
前期休学	4月1日～9月30日	6月末日												
後期休学	10月1日～翌年3月31日	12月末日												
復学	復学をするには	休学者が復学を希望する場合、大学所定の「復学願」を提出し、教授会の承認を経て復学することができます。休学期間満了の約2ヶ月前に、学務部教務課(相模原キャンパスは学務課)から次期の復学・休学の継続などについての問い合わせをします。なお、復学が承認された場合の年次は、休学の種類にかかわらず、休学前と同一年次となります。	⇒所属キャンパスの教務窓口(巻末参照) 学則第30条参照											

		内 容	取扱・問い合わせ窓口
退 学	退学の期日	退学の期日は、学費の納付期間によって異なります。前期分まで納付している場合は9月30日付、後期分まで納付している場合は3月31日付となります。	学則 別記学費納付に関する取扱い10参照
	退学をするには	病気その他やむを得ない事情で退学を希望する場合は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「退学願」（大学所定用紙）（保証人連署）の提出 ② 学生証の提出 ③ 退学期日を含む学期までの学費の納入	⇒所属キャンパスの教務窓口（巻末参照） 学則第32条参照
再 入 学		退学した後に再入学を願い出た場合、事情を審査のうえ相当年次に再入学を許可することがあります。願い出をするためには以下のような条件があります。 ① 再入学の願い出ができる期間は、原則として退学した日から2年以内とし、「再入学願」は1月中旬～1月末日（要問い合わせ）の間に学務担当窓口に出してください。 ② 再入学できる時期は、学年の初めとします。	⇒所属キャンパスの教務窓口（巻末参照） 学則第27条参照
二重学籍	二の重禁学籍止	本学学生は、他大学および本学他学部または他学科と併せて在学することはできません。	学則第27条の2 参照
除 籍		学費を期限内に納入しない、履修登録をしない、などの場合は修学の意味がないものとして除籍され、本学学生としての身分を失うことになります。なお、除籍者に対しては、以後、在学中の修得単位・成績の証明などは一切行ないません。また、再入学の資格も失うことになります。	学則第34条参照
転学部・転学科	転学部とは	文学部、教育人間科学部、法学部、国際政治経済学部へ学部を移ることです。転学部を願い出た場合には、選考の上、当該学部への転学部を許可することがあります。許可された場合、転学部届の提出が必要となります。	⇒所属キャンパスの教務窓口（巻末参照） 学則第26条参照
	転学科とは	同一学部内で学科を移ることです。文学部の学生で転学科を願い出た場合には、選考の上、文学部の他学科への転学科を許可することがあります。また、教育人間科学部の学生が転学科を願い出た場合には、選考の上、教育人間科学部の他学科への転学科を許可することがあります。許可された場合、転学科届の提出が必要となります。	（詳細については、広報入試センター（青山キャンパス）から、10月初旬発行予定の「試験要項」を確認してください。）

X . 教職課程（教員免許状・各種資格）について

1 . 本学で取得可能な教育職員免許状

〔取得可能な免許状の種類・教科（学部・学科別）〕

本学で取得可能な免許状の種類・教科は次のとおりです。

（2013年度入学者）

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類 ・ 教 科
文学部	英米文学科	中 学 校教諭 1 種免許状（英語） 高等学校教諭 1 種免許状（英語）
	フランス文学科	中 学 校教諭 1 種免許状（フランス語） 高等学校教諭 1 種免許状（フランス語）
	日本文学科	中 学 校教諭 1 種免許状（国語） 高等学校教諭 1 種免許状（国語）
	史学科	中 学 校教諭 1 種免許状（社会） 高等学校教諭 1 種免許状（地理歴史）
教育人間科学部	教育学科	幼 稚 園教諭 1 種免許状 小 学 校教諭 1 種免許状 中 学 校教諭 1 種免許状（国語・社会・英語） 高等学校教諭 1 種免許状 （国語・地理歴史・公民・英語）
理工学部	物理・数理学科	中 学 校教諭 1 種免許状（理科・数学） 高等学校教諭 1 種免許状（理科・数学）
	化学・生命科学科	中 学 校教諭 1 種免許状（理科） 高等学校教諭 1 種免許状（理科）
	電気電子工学科	高等学校教諭 1 種免許状（工業）
	機械創造工学科	高等学校教諭 1 種免許状（工業）
	経営システム工学科	高等学校教諭 1 種免許状（情報）
	情報テクノロジー学科	高等学校教諭 1 種免許状（情報）
社会情報学部	社会情報学科	中 学 校教諭 1 種免許状（数学） 高等学校教諭 1 種免許状（数学・情報）

2 . 教員免許状の取得希望申請について

教員免許状の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、前期履修登録期間に Web の履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に必ず行うものであり、在学中における申請内容の変更・取消、またはその有無にかかわらず、教職履修申請継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。

3 . 教職課程料の納入について

教員免許状の申請登録（Web）をすると、申請した年度ごとに後期学費納入時に教職課程料を納入することになります。たとえ教職課程科目の履修登録をしなくても、教員免許状の申請登録によって教職課程料が後期学費に加算されますので、各自の責任において免許教科を確認し、熟考の上申請をしてください。また、申請登録（Web）の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納入された教職課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

※学費を前期納付時に一括納付した者については、教職課程料の納付時期は 9 月となります。

4. 教職課程履修について

履修上の注意

教職課程の履修は、1年次の年度初頭に開催される**教職課程オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』に従ってください。また、履修方法・科目名称の変更などについては、年度初頭に開催される2年次生対象**教職課程オリエンテーション**と3年次生および4年次生対象**教育実習・教職実践演習説明会**で資料を配付しますので、必ず確認してください。

教職課程関係の**オリエンテーション・説明会**および**手続**などの詳細については、『**学年初頭行事**』（学生ポータルに掲載）、教職課程掲示板で確認してください。

オリエンテーション・説明会に欠席したり、指定期間内に**介護等体験登録**、**教育実習Ⅱ・教職実践演習予備登録**、**教員免許状大学一括申請**などの手続を行わなかった場合、卒業時までに教員免許状を取得できない事態に陥ることがありますので、遺漏のないよう自己管理してください。

履修順序のある科目

教員免許状取得のための科目には、次ページ以下のとおり「**履修順序**」が定められたものがあります。詳細については、『**教職課程履修の手引**』の該当する学部・学科別の免許教科の項を併せて参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な教員免許状の校種・教科は、「1. 本学で取得可能な**教育職員免許状**」の表のとおりです。

〔教員免許状取得に必要な科目の履修順序〕

(2013年度入学者適用)

幼稚園教諭免許状取得希望者

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
			第 1 段階に合格した場合のみ履修できる	第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)		(4 年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	保育内容教育法を 3 教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II 教職実践演習 (幼)

小学校教諭免許状取得希望者

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
			第 1 段階に合格した場合のみ履修できる	第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)		(4 年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	初等教科教育法を 4 教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II 教職実践演習 (小)

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
		第 1 段階に合格した場合のみ履修できる		第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)		(4 年次配置科目)
教育原理 A (教育思想概説) 教育心理 (教育心理学概説) 教育原理 B (教育制度概説)	教職論	中等教育実習 I 国語科教育法 又は 国語科教材論 社会科教育法 又は 社会科教材論 地理歴史科教育法 又は 地理歴史科教材論 公民科教育法 又は 公民科教材論 英語科教育法 又は 英語科教育法特論 フランス語科教育法 (フランス語教授法 I) 又は フランス語科教育法特論 理科教育法 I 及び理科教育法 II 又は 理科教材論 数学科教育法 又は 数学科教育法特論 工業科教育法 情報科教育法 又は 情報科教育法特論		中等教育実習 II A 中等教育実習 II B 教職実践演習 (中・高)

5. 教職課程科目 配置表

文学部
教育人間科学部
理工学部
社会情報学部

(2013年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1	
	教育心理	4	1	
	教育原理 B	2	1	
	教育課程編成法（中等）	2	3・4	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	フランス語科教育法特論	4	3	
	理科教育法 I	2	3	
	理科教育法 II	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道德教育指導法（中等）	2	3・4	
	特別活動論（中等）	2	3・4	
	教育方法の研究（中等）	2	3・4	
	生徒・進路指導論（中等）	2	3・4	
	教育相談（中等）	2	3・4	
	幼児教育実習 I	1	3	
	幼児教育実習 II	4	4	
	初等教育実習 I	1	3	
	初等教育実習 II	4	4	
	中等教育実習 I	1	3	
	中等教育実習 IIA	2	4	
	中等教育実習 IIB	2	4	
	教職実践演習（幼）	2	4	
	教職実践演習（小）	2	4	
	教職実践演習（中・高）	2	4	

6. 本学で取得可能な資格

〔取得可能な資格の種類
(学部・学科別)〕

本学で取得可能な資格の種類は次のとおりです。

(2013年度入学者)

学 部	学 科	資 格 の 種 類
文学部	英米文学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	フランス文学科	
	日本文学科	
	史学科	
	比較芸術学科	司書・社会教育主事・学芸員
教育人間科学部	教育学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	心理学科	司書・社会教育主事・学芸員
経済学部	経済学科	司書・社会教育主事・学芸員
	現代経済デザイン学科	
法学部	法学科	司書・社会教育主事・学芸員
経営学部	経営学科	司書・社会教育主事・学芸員
	マーケティング学科	
国際政治経済学部	国際政治学科	司書・社会教育主事・学芸員
	国際経済学科	
	国際コミュニケーション学科	
総合文化政策学部	総合文化政策学科	司書・社会教育主事・学芸員
理工学部	物理・数理学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	化学・生命科学科	
	電気電子工学科	
	機械創造工学科	
	経営システム工学科	
	情報テクノロジー学科	
社会情報学部	社会情報学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員

7. 各種資格の取得希望申請について

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、前期履修登録期間に、Webの履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に必ず行うものであり、在学中における申請内容の変更・取消、またはその有無にかかわらず、継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。

8. 資格課程料の納入方法

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の申請登録（Web）をすると、それぞれの資格について申請した年度ごとに後期学費納入時に資格課程料を納入することになります。たとえ必要科目の履修登録をしなくても、各種資格の申請登録によって資格課程料が後期学費に加算されますので、熟考の上申請をしてください。また、申請登録（Web）の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納入された資格課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

※学費を前期納付時に一括納付した者については、資格課程料の納付時期は9月となります。

9. 各種資格取得に必要な科目の履修について

履修上の注意

各種資格取得に必要な科目の履修は、1年次の年度初頭に開催される**各種資格オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』に従ってください。

また、履修方法・科目名称などの変更があった場合には、年度初頭に開催される2年次生対象の**司書教諭・司書・社会教育主事オリエンテーション**、**学芸員オリエンテーション**、2年次生対象「**博物館実習Ⅰ**」**予備登録説明会**（学芸員資格取得希望者対象）などで資料を配付しますので、必ず確認してください。

各種資格関係の**オリエンテーション・説明会**および**手続**等の詳細については、『**学年初頭行事**』（学生ポータルに掲載）、教職課程掲示板で確認してください。

オリエンテーション・説明会に欠席したり、指定期間内に**博物館実習予備登録・各種資格申請**などの手続を行わなかった場合、卒業時まで資格の取得ができない事態に陥ることがありますので、遺漏のないよう自己管理してください（但し、**司書教諭**資格の取得時期については、『**教職課程履修の手引**』を参照してください）。

履修順序のある科目

司書および**学芸員**資格取得のための科目には、「**履修順序**」が定められたものがあります。詳細については、下表および『**教職課程履修の手引**』の**司書**および**学芸員**の項を参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な資格の種類は、「**6. 本学で取得可能な資格**」の表のとおりです。

〔司書資格取得に必要な科目の履修順序〕

（2013年度入学者）

①	②
2年次以降履修できる	第1段階の科目に合格した翌年度以降にのみ履修できる
（2年次配置科目）	（3・4年次配置科目）
図書館情報学概論	情報サービス論Ⅱ 情報サービス論Ⅲ メディア組織法Ⅱ メディア組織法Ⅲ

〔学芸員資格取得に必要な科目の履修順序〕

（2013年度入学者）

①		②
2・3年次のみ履修できる	3年次のみ履修できる	①を履修し合格した者のみ履修できる
（2年次配置科目）	（3年次配置科目）	（4年次配置科目）
博物館概論 博物館経営論 博物館資料論	博物館実習Ⅰ	博物館実習Ⅱ

- ・「**博物館実習Ⅰ**」は3年次生しか履修できません。
- ・「**博物館実習Ⅰ**」は、実習設備等の諸事情により、受講者は30名までとします。また、2年次10月に博物館実習予備登録を受付け、3年次年度初頭に選抜試験を実施します。
- ・「**博物館実習Ⅰ**」**説明会・予備登録**の日程については、教職課程掲示板で確認してください。

履修順序のある科目の 登録方法

- ① 「博物館実習Ⅰ」（３年次配置科目）は、**事前登録科目**です。２年次10月に**博物館実習予備登録**をし、３年次の年度初頭に実施される**選抜試験**に合格することにより**事前登録**されるので、履修登録期間中に個人が登録する必要はありません。履修登録期間中に、Webの履修登録画面で登録内容を確認してください。
- ② 「博物館実習Ⅱ」（４年次配置科目）は、Webの履修登録画面から各自が登録をしてください。履修順序の条件を満たしていない場合は、登録することができません。

XI . 大学院について

本学には、より高度な専門知識と技術によって確かな実績と高い評価をうける「大学院」各研究科・専攻に加え、時代と社会の要請に応える高度専門職業人養成の「専門職大学院」があります。

学部から本学「大学院」「専門職大学院」へ進学を希望する学生は、詳細を下記に問い合わせてください。

《問い合わせ先》

大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
文学研究科 教育人間科学研究科 経済学研究科 法学研究科 経営学研究科 国際政治経済学研究科 総合文化政策学研究科	教務課 所在：青山キャンパス 17号館 2 階
理工学研究科 社会情報学研究科社会情報学専攻社会情報学コース 社会情報学研究科社会情報学専攻ヒューマンイノベーションコース	スチューデントセンター・学務課 所在：相模原キャンパス B 棟 1 階
国際マネジメント研究科	専門職大学院教務課 所在：青山キャンパス 17号館 2 階

専門職大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
国際マネジメント研究科（ビジネススクール） 法務研究科（ロースクール） 会計プロフェッション研究科（アカウンティングスクール）	専門職大学院教務課 所在：青山キャンパス 17号館 2 階

* 青山学院大学ホームページ（<http://www.aoyama.ac.jp>）にも、情報が載っていますので、参照してください。

* 上記の内容に変更が生じた場合は、「学生ポータル」で伝達いたします。

大学院 入試情報一覧（2013年度実績）

		学内進学者 選抜※ 1	内部推薦	外部推薦	一般(秋)	一般(春)	大学院科目 特別履修資 格試験※ 2
文学研究科	英米文学専攻※ 1				○	○	○
	フランス文学・語学専攻※ 1				○	○	○
	日本文学・日本語専攻※ 1				○	○	
	史学専攻※ 1				○	○	○
	比較芸術学専攻※ 1				○ (2014年度より 実施予定)	○	
教育人間科学 研究科	教育学専攻※ 1				○	○	
	心理学専攻※ 1 心理学コース 臨床心理学コース	○				○	
経済学研究科	経済学専攻※ 1	○			○	○	○
	公共・地域マネジメント専攻※ 1	○			○	○	○
法学研究科	私法専攻※ 1		○	○	○	○	○
	公法専攻※ 1						
		ビジネス法務専攻※ 2			○(実施時期は要問い合わせ)		○
経営学研究科	経営学専攻※ 1	○			○	○	○
国際政治経済 学研究科	国際政治学専攻※ 2	○			○	○	○
	国際経済学専攻※ 2						
	国際コミュニケーション専攻※ 2						
総合文化政策 学研究科	文化創造マネジメント専攻※ 2	○			○	○	○
	総合文化政策学専攻※ 3	○			○	○	
理工学研究科	理工学専攻※ 1 基礎科学コース 化学コース 機能物質創成コース 生命科学コース 電気電子工学コース 機械創造コース 知能情報コース マネジメントテクノロジーコース	○			○(実施時期は要問い合わせ)		
社会情報学研 究科	社会情報学専攻※ 1 社会情報学コース ヒューマンイノベーションコース	○			○(実施時期は要問い合わせ)		

専門職大学院 入試情報一覧（2013年度実績）

		自己・指定学部推薦			一般入試				
		7月	12月	2月	7月	9月	10月	1月	2月
国際マネジメント研究科	国際マネジメントサイエンス専攻※3						○		○
	国際マネジメント専攻※4						○	○	○
法務研究科	法務専攻※4				○	○			○
会計プロフェッション研究科	会計プロフェッション専攻※4	○	○	○			○		

※1 博士前期課程

※2 修士課程

※3 博士課程（5年一貫制）

※4 専門職学位課程

※1 経営学研究科・国際政治経済学研究科は「学内飛び級」制度も導入しています。

※2 「大学院科目特別履修資格試験」に合格した者は、学部4年次で大学院科目を履修できます。

経済学研究科・経営学研究科では「先取り科目履修方式」もあります。

教務窓口について

キャンパス	担当窓口	事務取扱時間	
相模原キャンパス	学務課 (B棟1階 スチューデントセンター)	(月～金) 9:00～11:30 12:30～17:00	(土) 9:00～11:30
	学務部 教務課 (17号館2階 スチューデントセンター)	(月～金) 9:00～11:30 12:30～20:00	(土) 9:00～11:30 14:00～20:00
青山キャンパス	学務部 教職課程課 (17号館2階 スチューデントセンター)	(月・水・木) 9:00～11:30 12:30～17:00 (火・金) 9:00～11:30 12:30～20:00	(土) 9:00～11:30

*上記の内容に変更が生じた場合は、「学生ポータル」で伝達いたします。

*長期休業など、授業期間以外の事務取り扱いについては「学生ポータル」で伝達いたします。

窓口で取り扱う業務：

- 履修・成績に関すること
- 授業に関すること
- 休学・退学などの学籍に関する願出
- 教職課程(教員免許状)および各種資格(司書教諭・司書・学芸員・社会教育主事)取得に関すること
- 証明書の交付

種 類	取扱窓口	手数料(1通につき)
在学証明書	証明書自動発行機 注1) 所属キャンパスの教務窓口	和文 200円 英文 400円
成績証明書		
卒業見込証明書		
本学が定めた様式以外の証明書 注2)	所属キャンパスの教務窓口	
学力に関する証明書	青山キャンパス教職課程課 相模原キャンパス学務課教職課程窓口	和文 400円
免許状取得見込証明書		和文 200円
各種資格取得見込証明書		
健康診断証明書	証明書自動発行機 注1) 英文・指定用紙は保健管理センター	和文 200円 英文 400円

注1) 在学生の証明書発行は、原則として自動発行機をお使いください。

注2) 即日発行できない証明書があるので事前に取扱窓口で確認してください。

*電話など、窓口以外での受付には原則として応じません。

*提出物は期限を厳守してください。締切後の取り扱いは一切行いません。

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
青山学院スクール・モットー

学生番号

氏 名